

史跡齋宮跡

第 188 次発掘調査報告



2024年3月
齋宮歴史博物館

例 言

- 1 本書は、齋宮歴史博物館が平成 28 年度に内閣府の地方創生加速化交付金を受けて実施した、齋宮を核とした交流促進事業（齋宮跡 第 188 次調査）の概要をまとめたものである。
- 2 遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第Ⅵ座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。また、建物の軸方位については、全て北を規準として表記している。
- 3 齋宮跡の遺構・遺物の時期区分については、齋宮歴史博物館 2019『齋宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 出土遺物編』に拠る。
- 4 齋宮跡の時期区分については、土器編年に基づき、期と段階を用いて「齋宮跡Ⅰ期第Ⅰ段階」等と表記するが、本文中ではこれを簡略的に「齋宮Ⅰ－Ⅰ期」と表現している。また、時代の表記は「前期・中期・後期・末期」とした。なお、齋宮の時期区分と実年代の対応関係は次のとおりである。

齋宮Ⅱ－Ⅰ期:780年～810年頃、齋宮Ⅱ－Ⅱ期:810年～840年頃、齋宮Ⅱ－Ⅲ期:840年～900年頃、齋宮Ⅱ－Ⅳ期:900年～950年頃
齋宮Ⅲ－Ⅰ期:950年～1020年頃、齋宮Ⅲ－Ⅱ期:1020年～1080年頃、齋宮Ⅲ－Ⅲ期:1080年～1140年頃、齋宮Ⅲ－Ⅳ期:1140年～1170年頃
齋宮Ⅳ期:1170年～1300年頃
- 5 遺構表示記号は次のとおりである。

SA：柱列 SB：掘立柱建物 SD：溝 SF：道路 SI：竪穴建物 SK：土坑 SZ：落ち込み・その他
Pit：柱穴、ピット
- 6 遺物実測図は基本的に実物の4分の1で掲載している。
- 7 土層および出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（2004年度版）に拠る。施釉陶器の色調については一部、大日本インキ化学工業株式会社発行『日本の伝統色』第5版（1989年）を用いて補っている。
- 8 遺物の漢字表現は、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「碗」、「つき」は「杯」を用いる。ただし、参考文献からの引用の場合にはこの限りではない。
- 9 図面・写真等の調査資料及び出土遺物は、齋宮歴史博物館で保管している。
- 10 発掘調査は穂積裕昌、執筆・編集は宮原佑治（Ⅱ章）・小原雄也（Ⅰ章）が担当した。また発掘調査および資料整理は、大川勝宏・山中由紀子・川部浩司・伊藤文彦・杉原泰子・八木光代・西川千晶・大和谷周子・中西宏美が補佐した。

目次

I 前言	1
II 第188次調査	7

挿図目次

第I-1図	史跡齋宮跡位置図	3
第I-2図	第188次発掘調査位置図	4
第I-3図	齋宮跡方格街区区画名称図	5
第I-4図	史跡齋宮跡における大地区表示図	6
第II-1図	第188次調査 グリッド図	7
第II-2図	第188次調査 調査区位置図	8
第II-3図	第188次調査 遺構平面図	9
第II-4図	第188次調査 土層断面図	10
第II-5図	第188次調査 出土遺物実測図1	19
第II-6図	第188次調査 出土遺物実測図2	20
第II-7図	第188次調査 出土遺物実測図3	21
第II-8図	第188次調査 出土遺物実測図4	22
第II-9図	第188次調査 出土遺物実測図5	23
第II-10図	第188次調査 出土遺物実測図6	24
第II-11図	第188次調査 出土遺物実測図7	25

表目次

第II-1表	第188次調査 掘立柱建物一覧表	15
第II-2表	第188次調査 遺構一覧表	16
第II-3表	第188次調査 遺物観察表1	26
第II-4表	第188次調査 遺物観察表2	27
第II-5表	第188次調査 遺物観察表3	28
第II-6表	第188次調査 遺物観察表4	29
第II-7表	第188次調査 遺物観察表5	30
第II-8表	第188次調査 遺物観察表6	31
第II-9表	第188次調査 遺物観察表7	32
第II-10表	第188次調査 遺物観察表8	33
第II-11表	第188次調査 遺物観察表9	34

写真図版目次

表紙写真	第188次調査区と復元された古代伊勢道（西から）	
写真図版1	第188次調査区全景／調査区中央部全景	35
写真図版2	SF10999／SF11000・11001	36
写真図版3	SI10990／SA10946・SB10950	37
写真図版4	第188次調査現場と案内看板設置／案内テント／発掘現場の見学風景／発掘体験／休日公開 ／墨書土器体験／大学生による齋宮跡調査アシスタント／三大都市圏講演会	38
裏表紙写真	SI10990（北から）	

I 前 言

1 事業・調査の経緯と概要

(1) 史跡齋宮跡にかかる経緯と経過

齋宮跡の発見の契機は、高度経済成長期に齋宮段丘面の西縁部で大規模な宅地造成計画がなされ、その開発事業に先立って実施された昭和45年の齋宮跡（古里遺跡）の確認調査による。その後の発掘調査では、大型の建物を含む多くの掘立柱建物、井戸、土坑、奈良時代と鎌倉時代の大溝、蹄脚硯や大型赤彩土馬、緑釉陶器等が発見され、齋宮関連の重要遺跡と認識された。昭和48年度から文化庁の補助事業として確認調査を重ね、昭和54年3月27日に国史跡に指定され、東西約2km、南北約700mに及ぶ137haの史跡範囲が把握されるに至った。管理団体は、明和町である。

三重県は、史跡指定に伴い齋宮跡調査事務所を設置して発掘調査にあたり、平成元年度からは新たに開館した齋宮歴史博物館によって、史跡の実態解明のための計画的な学術調査を継続的に実施している。

齋宮跡の発掘調査では、史跡東部に所在する平安時代の方格街区と齋宮中枢部の解明が進展した。平成27年度には、柳原区画で平安時代前期の齋宮寮庁を対象に、史跡整備の一環として正殿・西脇殿・東脇殿の復元建物を建設し、史跡公園「さいくう平安の杜」が公開活用されている。

明和町は、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」に基づき、平成23年度から「明和町歴史的風致維持向上計画」の策定に取組み、平成24年6月6日に国の認定を受けた。同計画に基づき、下園東区画周辺において来訪者の案内・交流を目的とした施設整備を計画し、平成24年度に発掘調査を行い、平成27年度から工事に着手、平成29年3月に「いつきのみや地域交流センター」が竣工した。平成27年4月24日には、「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」が日本遺産に認定された。

(2) 史跡齋宮跡の発掘調査の履歴

齋宮跡の発掘調査は、昭和45年の確認調査（第1次）を皮切りに、史跡内容確認の計画的な学術調査、現状変更等に伴う調査が積み重ねられ、令和2年度には50年目の節目を迎えた。これまでは、史跡東部に位置し、平安時代の齋宮の中心地である、方格街区内部の発掘調査に重点を置き、具体

的な構造の解明に取り組んできた。

これらの成果は、発掘調査概報として毎年刊行しているが、正式な発掘調査報告書『齋宮跡発掘調査報告』は、齋王の宮殿「内院」（報告Ⅰ）、柳原区画の「齋宮寮庁」（報告Ⅱ）、下園東区画の「寮庫」（報告Ⅲ）、西加座南区画の「神殿」（報告Ⅳの一部）、飛鳥時代の齋宮中枢域の調査（報告Ⅴ）を刊行している。今後は、これまで調査を行ってきた方格街区の他の区画とともに、奈良時代の齋宮中枢域にかかる発掘調査の正式報告書を順次刊行していく方針である。

(3) 齋宮を核とした交流促進事業の経緯

齋宮を核とした交流促進事業は、平成28年度に内閣府の地方創生加速化交付金を受けて実施した事業である。齋宮歴史博物館の大きな特色である史跡の実態解明のための発掘調査を、交流人口の拡大や将来的に文化財保護や文化遺産を活かしたまちづくりを担う人材育成の場とするため、発掘現場の公開・活用事業とそのPR事業を行ったものである。

事業の予算額は、計28,000千円で、「齋宮発掘！参加・体験事業」（内、18,000千円）と「スマートフォン等を利用したガイドシステムの整備」（内、10,000千円）がある。

当該事業により第188次発掘調査を実施しており、調査の期間は平成28年5月23日～12月16日、調査面積は700㎡である。その他の平成28年度の齋宮跡発掘調査については、『史跡齋宮跡 平成28年度発掘調査概報』（齋宮歴史博物館2018年）及び『史跡齋宮跡 平成28年度現状変更緊急発掘調査報告』（明和町 2018年）を参照願いたい。

(4) 齋宮を核とした交流促進事業の概要

齋宮発掘！参加体験・事業

①発掘調査現場公開

齋宮跡広頭地区（古代伊勢道沿い）で実施した第188次調査において、調査担当者1名に加えて、調査解説担当の職員を1名常置し、見学者へ発掘の目的・方法、リアルタイムでの成果等を解説した。あわせて発掘現場のテントで、墨書土器体験を実施した。

②発掘現場の休日公開

6～11月に毎月1回、休日に発掘調査を行い、その様子を公開した。あわせて現地説明会や、紙粘土による土馬づくり、

銭の鑄造体験を実施した。

③発掘体験

夏休み子ども向けの1日体験発掘講座（8月2・3日）、大人向けの1日体験発掘講座（9月22日・10月22日・11月3日）、その他、学校や団体の申し込みによる発掘体験を実施した。

④齋宮の発掘を紹介するDVDソフト作製

第188次調査の現場を利用し、齋宮跡の発掘調査の方法等を伝えるための映像ソフト（約10分）を作製した。映像は、日本語版のほか英語・中国語（繁・簡）、韓国語字幕版を作製し、作成した映像は発掘現場で放映した。

⑤齋宮跡調査アシスタント制度

文化財を保存・活用し、地域づくりに資する人材を育成するため、三重大学・皇學館大学と連携協定を結び、考古学・歴史学を学ぶ学生が発掘アシスタントとして調査に参加できる制度を設けた。

スマートフォン等を利用したガイドシステムの整備

齋宮歴史博物館においてスマートフォン等に展示品の解説等が表示され、音声でも聞くことができる多言語ガイドシステムを導入するとともに、Wi-Fiを整備した。

（5）発掘調査現場の公開活用、公開講座の実施

日常の発掘現場の公開のほか、発掘体験や大学生向けの発掘研修、公開講座などを実施した。来場者・参加者の総数は5,306名で、その内訳は下記のとおりである。

一般来場者	計3,068名
休日公開	計1,475名
発掘体験	計275名
大学生による発掘研修	計72名
県外公開講座	計416名
平成28年7月2日	大阪市・近鉄文化サロン
平成28年9月4日	名古屋市・中日文化センター
平成29年2月11日	東京都・國學院大學博物館

2 調査体制

史跡齋宮跡の調査研究・整備活用に関する業務は、齋宮歴史博物館調査研究課が担当した。当該報告に関わる組織は以下の体制である。

平成28年度

大川勝宏

穂積裕昌

伊藤文彦

宮原佑治

令和5年度

山中由紀子

川部浩司

大川勝宏

小原雄也

3 齋宮跡調査研究指導委員会

平成29年3月15日に齋宮跡調査研究指導委員会を開催し、当該事業における齋宮跡の調査成果の報告等を行った。平成28年度における指導委員の方々は、下記のとおりである。

〔指導委員〕

浅野 聡（三重大学大学院准教授）

稲葉信子（筑波大学大学院教授）

小澤 毅（三重大学文学部教授）

金田章裕（京都大学名誉教授）

黒田龍二（神戸大学大学院教授）

佐々木恵介（聖心女子大学教授）

増淵 徹（京都橘大学教授）

松村恵司（奈良文化財研究所長）

本橋裕美（愛知県立大学准教授）

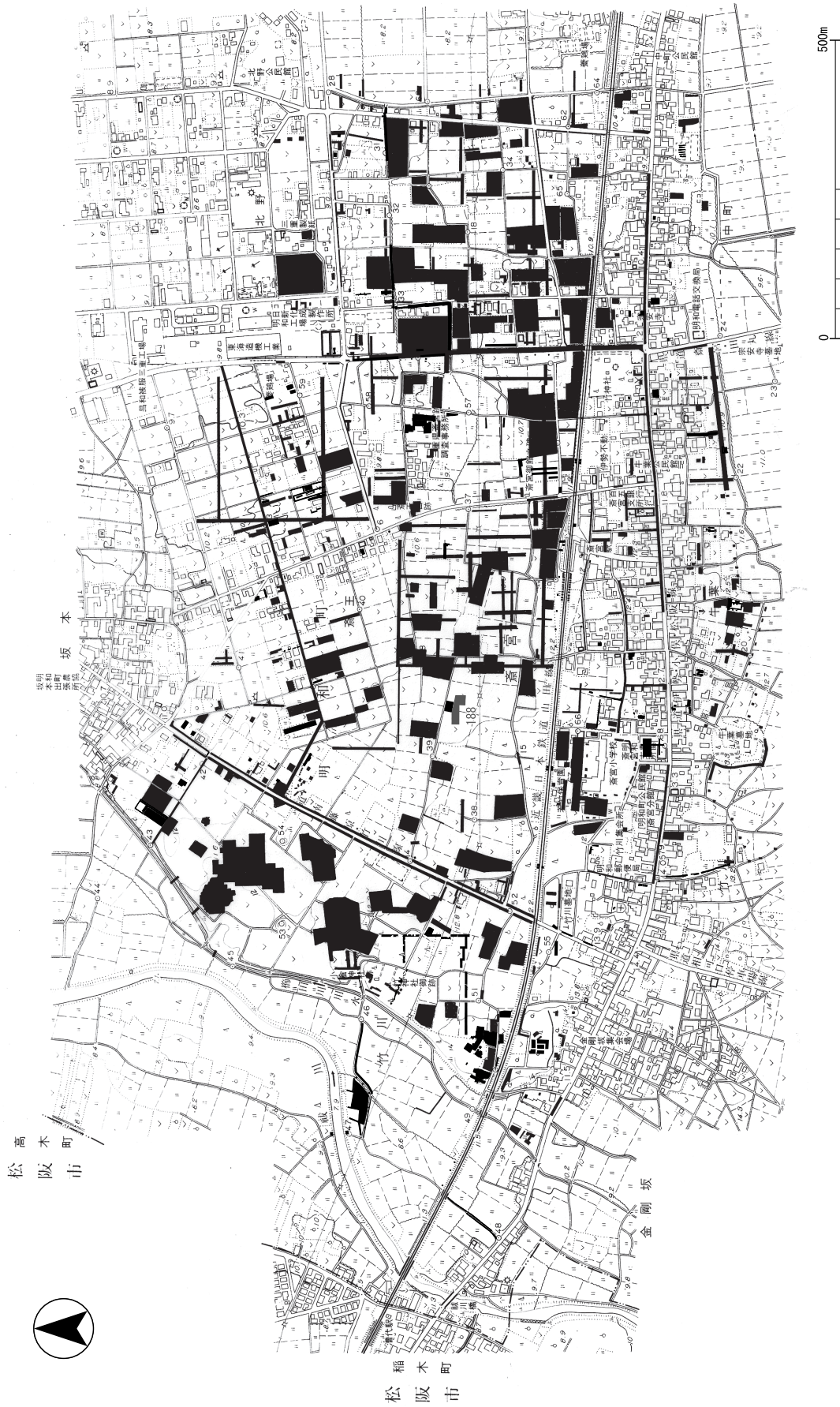
渡辺 寛（皇學館大学名誉教授）

綿貫友子（神戸大学大学院教授）

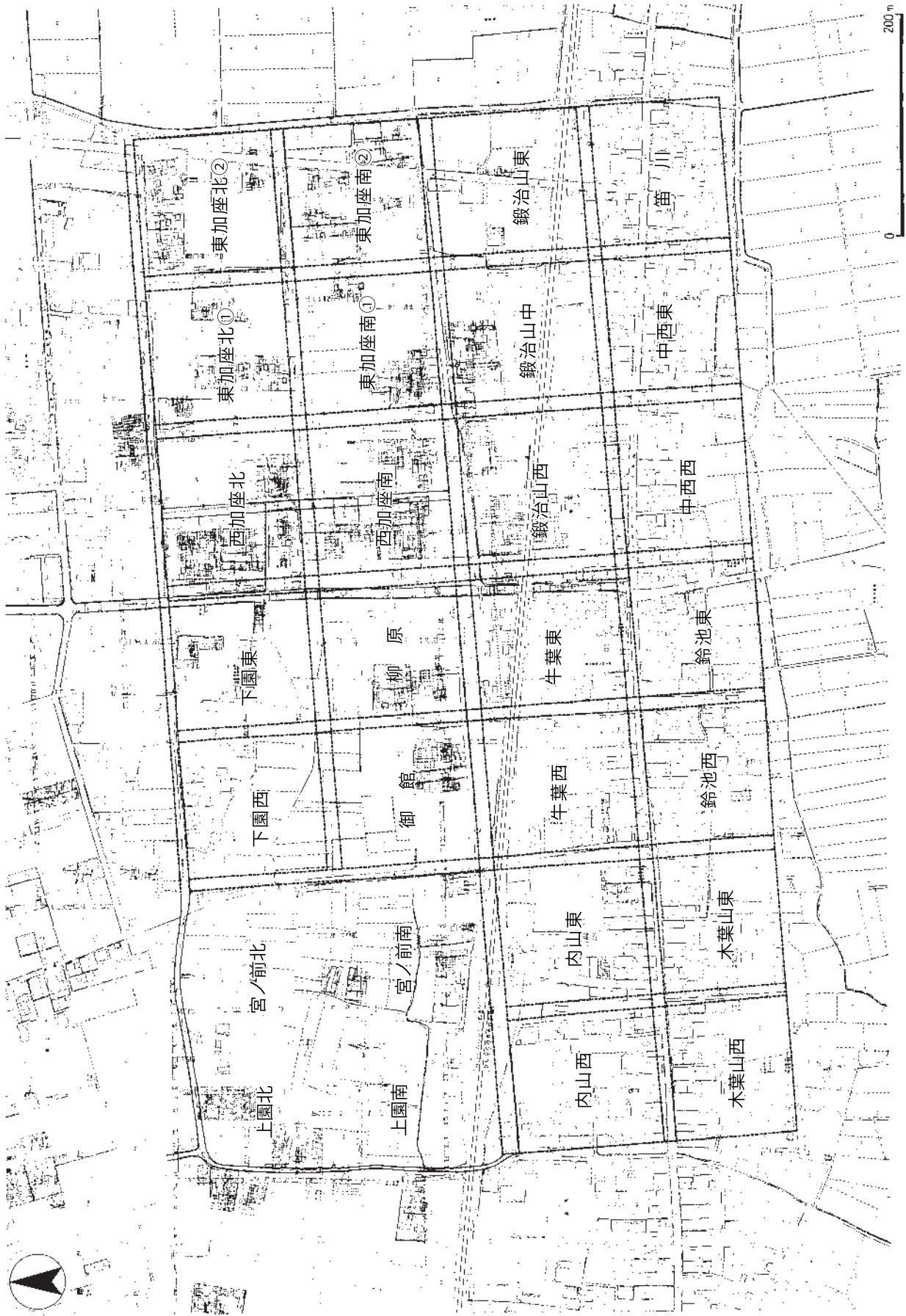
（五十音順・敬称略・所属は平成28年度時点）



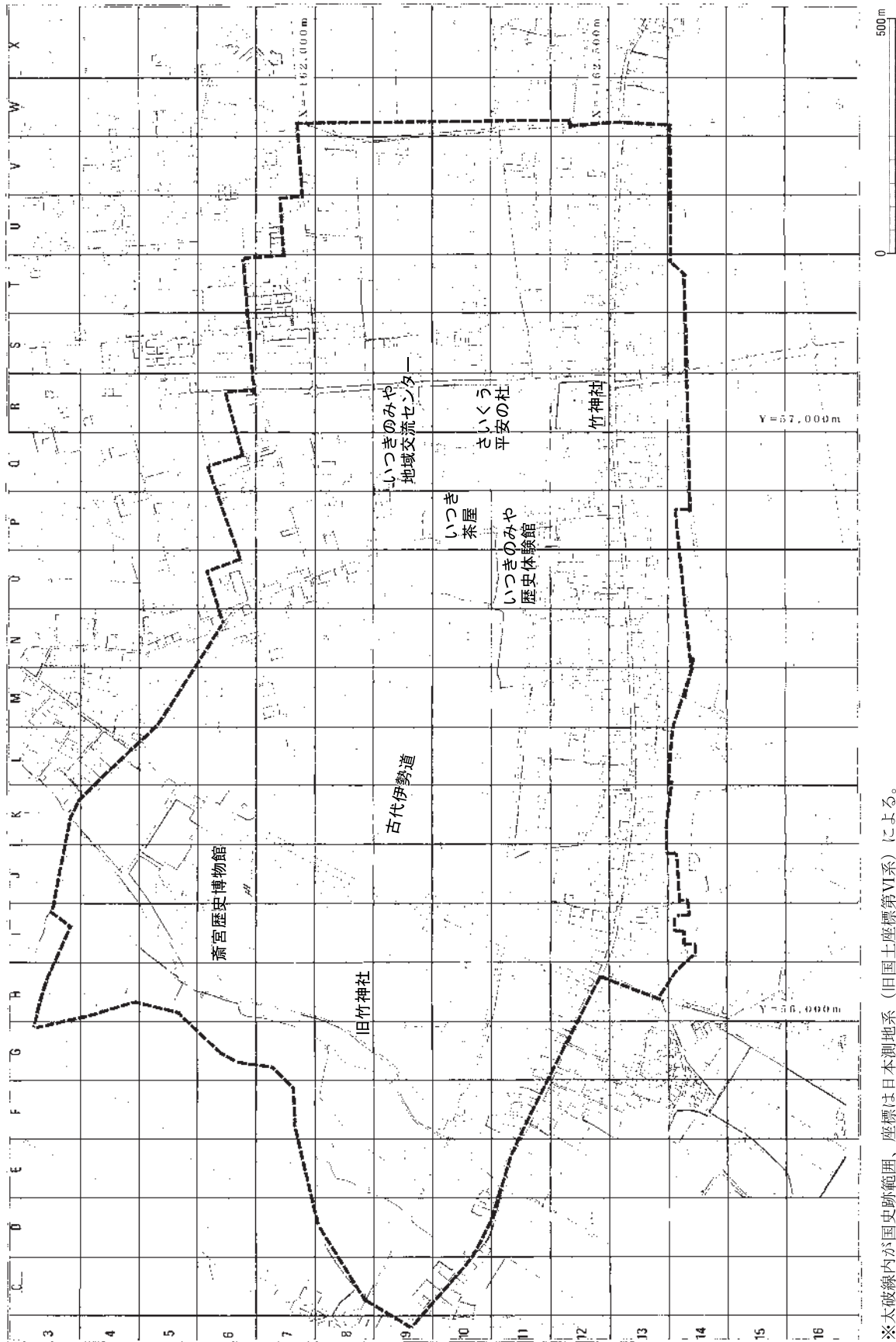
第 I - 1 図 史跡斎宮跡位置図 (1/500,000・国土地理院 1/25,000「松阪」明野を改変)



第 I - 2 図 第 188 次発掘調査位置図 (1/10,000)



第 I - 3 図 齋宮跡方格街区区画名称図 (1/5,000)



※太破線内が国史跡範囲、座標は日本測地系（旧国土座標第VI系）による。

第 I - 4 図 史跡斎宮跡における大地区表示図（2002 年策定）

Ⅱ 第188次調査

(6AL9 広頭地区)

1 はじめに

第188次調査は、古代伊勢道の約5m南側、奈良時代末期以降の斎宮・方格街区の約30m西側に位置する(第Ⅱ-1・2図)。付近では、第12-1次、32次、50次、87次、139次、154次調査が行われており、奈良時代の竪穴建物や掘立柱建物の他、平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物が確認されている。なかでも、平安時代中期には、古代伊勢道の北側の塚山地区で四面廂付建物が確認される等、重要遺構の展開が想定できる。

第188次調査は、こうした古代伊勢道の隣接地の実態解明を行うため、第154次調査区の南隣に調査区を設定した。

2 地形環境と地層

調査区は現況耕地の平坦面である。調査区は全体が標高11.4～11.5mで推移し、大きく高低の変化はみられない。

基本層序は上から、表土(耕作土)、包含層(黒ボク)、地山(黄褐色シルト)からなり、現況の地表面から地山面までの深さは0.35～0.4mである。

3 遺構

第188次調査では、古代伊勢道と直交し南下する南北方向の溝を複数条確認し、中には2条の溝が並行することから道路側溝と考えられるものもある(第Ⅱ-3図)。溝の周囲からは、掘立柱建物16棟、竪穴建物1棟、土坑17基、溝9条(道路側溝を含む)等を検出した。いずれも古代伊勢道が敷設された当初の奈良時代前後まで遡るものではなく、平安時代後期～鎌倉時代初頭を中心とするものである。

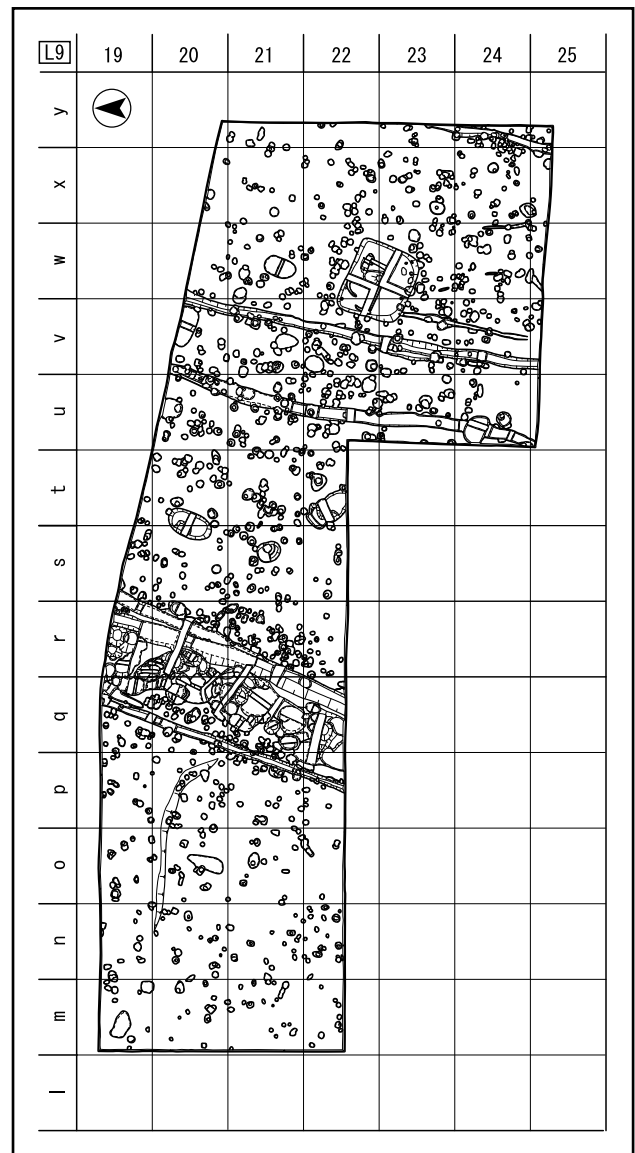
(1) 平安時代前期以前の遺構

SF10999 調査区の東側で検出したSD9864を西側溝、SD10982を東側溝とする南北道路と考えられる遺構で、道路幅は両側溝の内側で3.2～4.0mを測る。道路北端の中心と南端の中心を結んだ直線の方位は、N11°Eとなる。

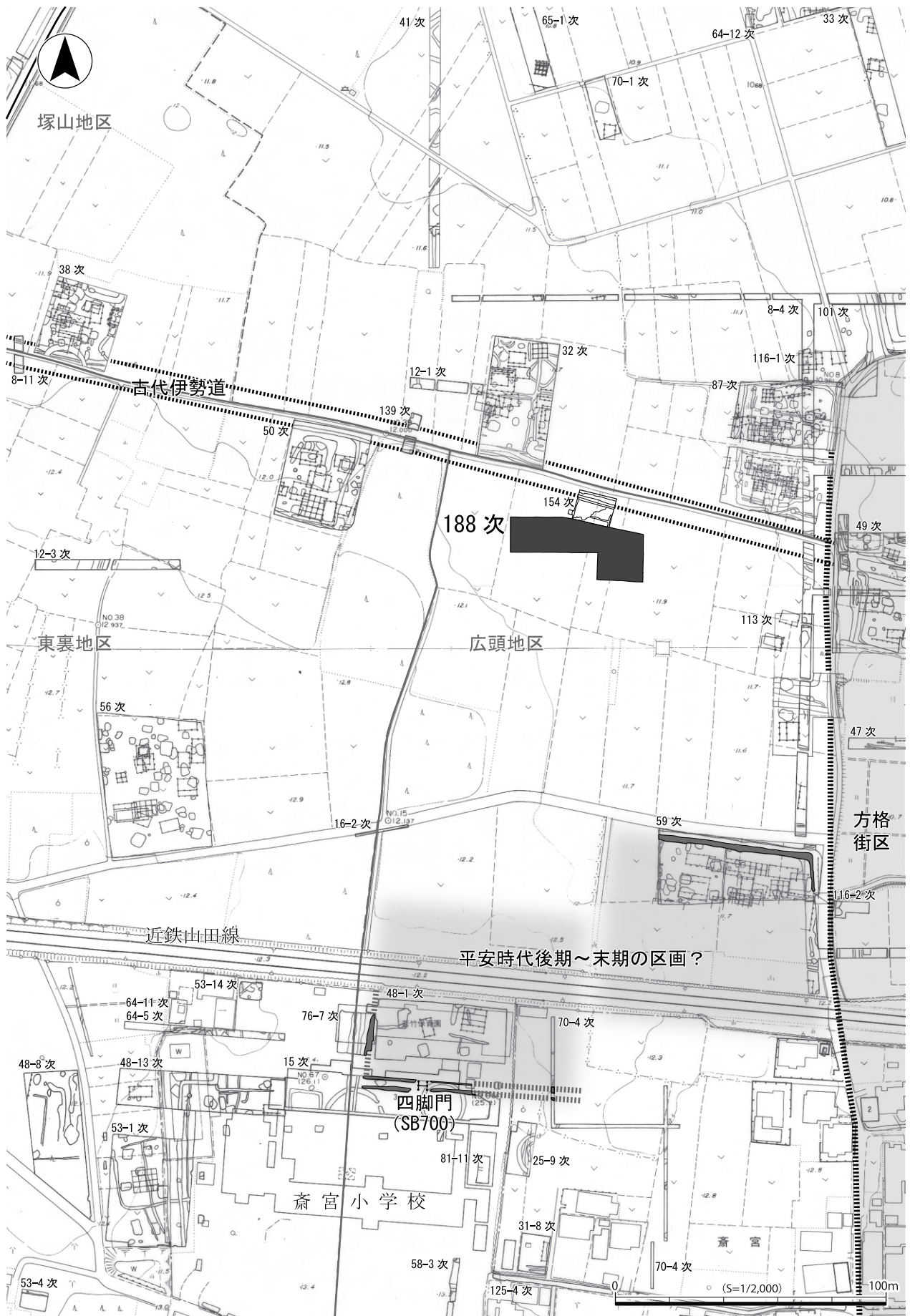
SD9864は、第154次調査で既に検出されており、東西に7m以上延びて南北溝に接続する南に長いT字形を呈し、東西溝と南北溝は別々ではなく一連の溝であることが報告されて

いる。幅は0.5～0.8m、第154次調査区の北端から24.4m以上で南側は調査区外に続く。深さは0.1～0.25mで、断面の形状は浅いU字型である。重複関係からSA9861・SB10974・10975・10983・10984、SK9860・10986より古い。出土遺物には斎宮Ⅱ～Ⅲ期の土器(第Ⅱ-5図1～10)が混在する。

SD10982は、幅が0.6～0.8m、長さは19.0m以上で、南北共に調査区外に続く。深さは0.1～0.2mで断面形状は浅いU字型である。重複関係からSB10977・10978・10980・10983・10984・10985より古い。出土遺物には斎宮Ⅱ～Ⅲ期の土器(第Ⅱ-5図11～14)が混在する。



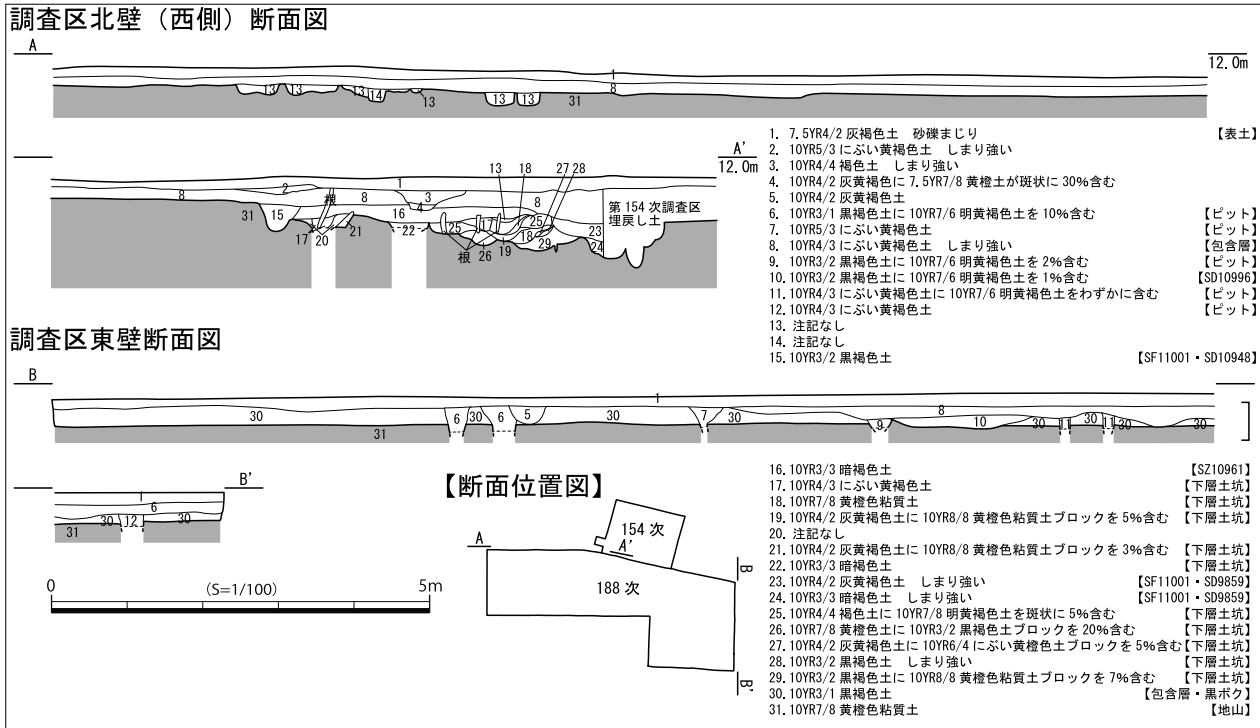
第Ⅱ-1図 第188次調査 グリッド図(1/400)



第Ⅱ-2図 第188次調査 調査区位置図 (1/2,000)



第Ⅱ-3図 第188次調査 遺構平面図(1/200)



第Ⅱ-4図 第188次調査 土層断面図 (1/100)

SF10999は、両側溝の出土遺物では正確な時期は不明だが、重複関係からⅡ-3期以前に掘削された可能性がある。斎宮Ⅲ期以降の遺物は、重複する遺構からの混入と推測される。

SF11000 調査区の西側で検出したSD10949を西側溝、SD10967を東側溝とする南北道路であるが、後述するSF11001の側溝や土坑等と重複しており、両側溝の大部分が失われている。

道路幅は両側溝の内側で4.0～4.2mを測り、方位は西側溝の残存長が短いため不正確ではあるが、SD10967の主軸はN23°Eである。SD10949は幅が0.6～0.7m、長さは2.0m以上で北側は調査区外に続く。深さは0.2～0.25mで、断面形状は逆台形を呈す。重複関係からSF11001の西側側溝SD10948やSZ10960より古い。出土遺物は土師器の細片のみである。

SD10967は幅が0.6～0.7m、長さは10.0m以上で、南北両側で調査区外に続く。深さは0.25～0.35mで、断面形状は逆台形を呈す。重複関係からSF11001の東側溝SD9859より古い。また、第154次調査概報では未報告だが、SD10967の北側延長線には同程度の幅、深さの溝が一条確認されており、もしSD10967と同一の溝であれば17m以上である。この溝の重複関係は、斎宮Ⅱ-4期の遺物が出土したSK9860や平安時代後期とされるSD9857よりも古い。出土遺物は、斎宮Ⅱ

-3期以前の土師器皿や杯（第Ⅱ-5図15～17）がみられる。SF11000は両側溝の重複関係や出土遺物から、Ⅱ-3期以前に掘削された南北道路である。

（2）平安時代中～後期前半の遺構

① SF11000の廃絶後に掘削された遺構

SZ10951 調査区西側のSF11000の路面上に掘削された方形の落ち込みで、下層から複数の土坑（SK10952・10953・10954・10955・10956）やピット等を検出した。SZ10951の規模は、東西幅2.8m、南北幅3.2mで、深さは内部の土坑やピットを除き0.2～0.4mとなる。

SZ10951内の土坑群

SK10952 SZ10951の内側、南西部で検出した楕円形土坑で、東西幅0.7m、南北幅1.3m、深さ0.7mとなる。重複関係からSK10953より新しいと考えられるが、同一の落ち込み内のため明確な時期差があるかはわからない。

SK10953 SZ10951の内側、西部で検出した円形土坑で、東西幅0.75m、南北幅0.8m、深さ0.45mとなる。先述した通り重複関係からSK10952より古いと考えられる。

SK10954 SZ10951の内側、北部で検出した楕円形土坑で、東西幅1.1m、南北幅0.9m、深さ0.4mとなる。

SK10955 SZ10951の内側、北東部で検出した楕円形土坑で、東西幅0.7m、南北幅1.0m、深さ0.55mとなる。重複関係からSZ10963・10966より古い。斎宮Ⅱ-4期と考えられる遺物(第Ⅱ-5図23)が出土した。東西幅0.75m、南北幅1.2m、深さ0.4~0.5mとなる。重複関係からSK10956より新しいが、同一の落ち込み内のため明確な時期差があるかはわからない。

SK10956 SZ10951の内側、南東部で検出した隅丸方形土坑で、東西幅1.95m、南北幅1.5m、深さ0.65mとなる。先述した通り重複関係からSK10955より古いと考えられる。

SZ10951を含め、各落ち込みからは斎宮Ⅱ-4期前後の遺物(第Ⅱ-5図18~24)が出土し、SK9860(第154次調査)と同様にSF11000が使用されなくなった後に、掘削されたものと考えられる。

SZ10957 SF11000の南側で検出した不整形の落ち込みで、下層から複数のピット等を検出した。東西幅1.25m、南北幅1.35m以上、深さ0.4mとなる。出土遺物は少なく、明確な時期は示せないが、重複関係からSZ10959より古く、斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期以前と考えられる。

南側の落ち込み群

SZ10958 SF11000の南側で検出した円形落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.5m、南北幅1.5m、深さ0.5m以上となる。重複関係からSZ10959より古い。斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期の遺物(第Ⅱ-5図25~31)が出土した。

SZ10959 SF11000の南側で検出した円形落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.5m、南北幅1.5m、深さ0.5m以上となる。重複関係からSZ10957・10958より新しい。斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期の遺物(第Ⅱ-5図32~46)が出土した。

北側の落ち込み・土坑群

SZ10960 SF11000の北側で検出した落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.0m、南北幅2.2m以上、深さ0.4~0.6mとなる。重複関係からSZ10961・10964より新しく、SF11001西側溝SD10948より古い。斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期の遺物(第Ⅱ-6図47~51)が出土した。

SZ10961 SF11000の北側で検出した溝状の落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.0m、南北幅3.5m以上、深さ0.6mとなる。出土遺物(第Ⅱ-6図52・53)はほとんどみられないが、重複関係からSZ10962より新しく、SF11001東側溝SD9859・SZ10960より古いため、

SZ10961も斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期と考えられる。

SZ10962 SF11000の北側で検出した落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.25m以上、南北幅1.5m以上、深さ0.55mとなる。重複関係からSF11001東側溝SD9859・SZ10961より古い。斎宮Ⅱ-4~Ⅲ-1期の遺物(第Ⅱ-6図54~57)が出土した。

SZ10963 SF11000の北側で検出した落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.1m、南北幅1.05m、深さ0.55mとなる。斎宮Ⅱ-2~Ⅱ-3期の遺物(第Ⅱ-6図58・59)が出土しているが、重複関係からSK10965・10966より新しく、混入したものと考えられる。

SZ10964 SF11000の北側で検出した落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.15m、南北幅3.5m、深さ0.5~0.6mとなる。重複関係からSF11001東側溝SD9859・SZ10960より古い。須恵器の瓶類(第Ⅱ-6図60)が出土した。

SK10965 SF11000の北側で検出した土坑で、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅0.65m以上、南北幅0.8m以上、深さ0.6mとなる。重複関係からSZ10963・10966より古い。斎宮Ⅱ-4期と考えられる遺物(第Ⅱ-6図61・62)が出土した。

SZ10966 SF11000の北側で検出した落ち込みで、下層から複数の土坑やピット等を検出した。東西幅1.5m以上、南北幅1.0m以上、深さ0.55mとなる。重複関係からSK10965より新しく、SZ10963より古い。斎宮Ⅱ-4期以降と考えられる遺物(第Ⅱ-6図63)が出土した。

② SF11000より東に位置する遺構

SB10983 調査区東側で検出した桁行3間(5.4m)以上×梁行2間(3.5m)と考えられる東西棟の掘立柱建物で、西側は調査区外に続く。東側の妻柱は、SD10982との重複により認識できなかった。方位はN18°Eで、柱間寸法は、桁行が1.7~1.9m、梁行は妻柱が未確認であるためわからない。重複関係からSF10999の東西側溝SD9864・10982より新しい。いくつかの柱穴から斎宮Ⅱ-4期以降の遺物(第Ⅱ-6図64~74)が出土している。

SB10988 調査区東側で検出した桁行3間(5.4m)×梁行2間(3.35m)の南北棟の掘立柱建物で、方位はN16°Eとなる。柱間寸法は、桁行が1.4~2.35m、梁行が1.6~1.8mとなる。重複関係からSI10990より古い。柱穴から斎宮Ⅱ-4期に遡る遺物(第Ⅱ-6図75)が出土している。

SK10968 調査区中央のSF11000東側溝であるSD10967に隣接して掘削された楕円形の土坑で、東西幅0.7m、南北幅1.0m、深さ0.55mとなる。斎宮Ⅱ-4期の遺物（第Ⅱ-6図76）が出土している。

（3）平安時代後期前半以降の遺構

① 道路遺構

SF11001 調査区の西側で検出したSD9859を東側溝、SD10948を西側溝とする南北道路で、道路幅は両側溝の内側で3.5mである。道路北端の中心と南端の中心を結んだ直線の方位は、N19～20°Eとなる。SD9859は第154次調査で既に検出されており、長さは22m以上、幅は0.7～1.0mで、南側は調査区外に続く。深さは0.4～0.5mで、断面形状は逆台形となるが、東側は直立し、西側はやや緩やかに傾斜する。重複関係からSF11000の東側溝SD10967、SZ10951・10961・10962・10964、SK10955より新しい。斎宮Ⅲ-2期以降の遺物（第Ⅱ-6図77～104）が出土している。

SD10948は、長さは13.7m以上、幅は0.45mで、南北共に調査区外に続く。深さは0.25～0.5mで、断面形状はU字形を呈す。重複関係からSD10949・SZ10960より新しい。斎宮Ⅲ-1～2期の遺物（第Ⅱ-6図105～108）が出土している。SF11001は両側溝の重複関係や出土遺物から、SF11000が機能を失い、斎宮Ⅱ-4～Ⅳ期頃に多数の落ち込み・土坑が掘削（土取り）された後に、SF11000とはほぼ同一場所に再設された道路であると考えられる。

② 竪穴建物等

SI10990 調査区東側で検出した隅丸方形の竪穴建物で、東西幅4.0m、南北幅3.5m、深さ0.15～0.25mとなる。床面付近の埋土からは地山由来の粘質土や焼土を多数検出したが、特に北東部の約1.5m四方の範囲に集中する。

床面に接して粘質土や焼土、炭化物が散見し、また鉄滓や鉄製品および鉄片が出土していることから、鍛冶に関連する炉等が構築されていたと考えられる。この範囲内では、西側の南北方向の帯状の粘質土が、途中で約0.15m途切れるが、鞆羽口等の送風管が設置されていた可能性がある。重複関係からSB10988より新しい。斎宮Ⅲ-3～4期の土器（第Ⅱ-7図109・110）が焼土に含まれており、それ以降に操業したと考えられる。

SB10989 SI10990を囲むように建てられた桁行4～5間（6.0m）×梁行3間（5.4m）の南北棟の掘立柱建物で、方

位はN16°Eとなる。柱間寸法は、桁行1.4～1.65m、梁行1.5～2.0mとなるが、他の掘立柱建物と比べ、全体的に不規則な柱配置となり、桁行の明確な間数を確定できなかった。SB10988と重複するが、先後関係は不明である。

柱穴からは、斎宮Ⅱ～Ⅲ期の遺物（第Ⅱ-7図135・136）が出土したが、正確な時期は断定できない。SI10990では床面から支柱穴を検出していないため、SB10989がSI10990の覆い屋として機能した可能性がある。

SD10991 SI10990と接続する幅0.2～0.45m、長さ6.8mの溝で、SI10990と接続する箇所が最も深く0.1m、南端部で0.05mとなる。SI10990が鍛冶工房であると考えれば、建物から煙や水等を排出するような機能が想定できる。重複関係よりSB10995より新しい。出土遺物はほとんどみられないが、SI10990との関係性から斎宮Ⅲ-3～4期以降と考えられる。

③ 掘立柱建物・柵

SA10946 調査区西側で検出した柵と考えられる3間（6.7m）以上の南北軸の柱列で、北側は調査区外に続く。方位はN17°Eで、柱間寸法は2.0～2.1mである。重複はみられないが、後述SB10950と隣接して並行することからSB10950の建て替え等の可能性もある。柱穴から斎宮Ⅲ-3期の遺物（第Ⅱ-7図137）が出土している。

SB10950 調査区西側で検出した桁行3間（6.8m）以上×梁行3間（6.4m）以上と考えられる東西棟の掘立柱建物で、方位はN18°Eとなる。身舎は、桁行2間（4.8m）×梁行2間（4.0m）となり、西・南にそれぞれ廂が取り付く構造であると考えられる。身舎の柱間寸法は、桁行2.5m、梁行2.1m、廂出は西側で1.9m、南側で2.15mとなる。

その他、北側と東側にも廂が取り付き、四面廂となった可能性も考えられるものの、北側柱列に該当する部分が未調査であり、また柱並びが不安定なため確定できなかった。重複はみられないが、先述したSA10946がSB10950西辺の建て替えの可能性がある。柱穴からは、斎宮Ⅱ期やⅢ-3～4期の遺物（第Ⅱ-7図138～140）が出土している。

SB10970 調査区東側で検出した桁行3間（7.4m）×梁行3間（6.0m）と考えられる東西棟の総柱建物で、方位はN17°Eとなる。柱間寸法は桁行2.4～2.5m、梁行1.9～2.1mとなる。重複はみられない。柱穴からは、斎宮Ⅲ-3～4期の遺物（第Ⅱ-7図141～148）が出土している。

SB10974 調査区東側で検出した桁行3間(5.5m)×梁行2間(4.6m)の南北棟の掘立柱建物で、方位はN22°Eとなる。柱間寸法は桁行1.4~2.1m、梁行2.1~2.4mとなる。重複関係からSF10999西側溝SD9864より新しく、SB10998より古い。柱穴からは、斎宮Ⅱ-4期~Ⅲ-3期の遺物(第Ⅱ-7図149・150)が出土している。

SB10975 調査区東側で検出した桁行3間(5.8m)×梁行2間(4.7m)の南北棟の掘立柱建物で、方位はN25°Eとなる。柱間寸法は桁行1.55~2.35m、梁行2.4~2.45mとなる。重複関係からSF10999西側溝SD9864より新しい。柱穴からは、斎宮Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-7図151・152)が出土している。

SB10977 調査区東側で検出した桁行3間(6.0m)×梁行2間(4.0m)の南北棟の掘立柱建物で、方位はN18°Eとなる。柱間寸法は桁行1.9~2.2m、梁行1.8~2.2mとなる。重複関係からSF10999の側溝SD9864・10982より新しい。柱穴からは、斎宮Ⅲ期以降の遺物がわずかに出土している。

SB10978 調査区東側で検出した桁行3間(5.6m)×梁行2間(4.1m)の南北棟の掘立柱建物で、方位はN15°Eとなる。柱間寸法は桁行1.5~2.3m、梁行2.0~2.1mとなる。重複関係はみられない。柱穴からは、斎宮Ⅱ-3期~Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-7図153~155)が出土している。

SB10980 調査区東側で検出した桁行3間(6.5m)×梁行2間(4.4m)の東西棟の掘立柱建物で、方位はN16°Eとなる。柱間寸法は桁行2.05~2.4m、梁行2.2mとなる。重複はみられない。柱穴からは、斎宮Ⅲ-3~4期以降の遺物(第Ⅱ-7図156~158)が出土している。

SB10984 調査区東側で検出した桁行3間(5.8m)×梁行1間(2.15m)以上の東西棟と考えられる掘立柱建物で、方位はN16°Eとなる。柱間寸法は桁行1.8~2.15m、梁行2.15mとなる。重複関係からSF10999側溝SD9864・10982、SB10985より新しい。柱穴からは、斎宮Ⅲ期以降の遺物(第Ⅱ-7図159~161)が出土している。

SB10985 調査区東側で検出した桁行3間(7.85m)×梁行2間(4.35m)以上の東西棟の掘立柱建物で、方位はN15°Eとなる。柱間寸法は桁行2.5~2.8m、梁行2.1~2.25mとなる。重複関係からSF10999東側溝SD10982より新しく、SB10984より古い。柱穴からは、斎宮Ⅲ期以降の遺物(第Ⅱ-7図162~175)が出土している。

SB10993 調査区北東側で検出した桁行2間(4.1m)以上×梁行2間(3.9m)の南北棟の掘立柱建物で、北側は調査

区外に続く。方位はN20°Eとなる。柱間寸法は、桁行2.0m、梁行1.8~2.1mである。重複関係からSB10994より古い。柱穴からは、斎宮Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-7図176~178)が出土している。

SB10994 調査区北東側で検出した桁行2間(4.1m)以上×梁行2間(3.9m)の南北棟の掘立柱建物で、北側は調査区外に続く。方位はN20°Eとなる。柱間寸法は、桁行2.0m、梁行1.8~2.1mである。重複関係からSB10993より新しい。柱穴からは、斎宮Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-7図179)が出土している。

SB10995 調査区南東側で検出した桁行4間(8.45m)×梁行1間(2.0m)以上の東西棟と考えられる掘立柱建物で、南側は調査区外に続く。方位はN16°Eとなる。柱間寸法は、桁行1.95~2.15m、梁行2.0mである。重複関係からSD10991より新しい。東側に1間分の廂が付く可能性がある。柱穴からは、斎宮Ⅲ期以降の遺物がわずかに出土している。

SA10997 調査区南東側で検出した2間(3.7m)以上の南北軸の柱列で、南側・東側共に調査区外に続くため、柵であるか掘立柱建物であるかは確定できていない。方位は柱穴3基からの計測であるため不正確であるが、N22°Eとなる。柱間寸法は1.7~2.0mである。SD10996と重複するものの、先後関係はわからない。柱穴から斎宮Ⅲ期以降の遺物(第Ⅱ-7図180)が出土している。

SB10998 調査区北東側で検出した桁行3間(6.5m)×梁行2間(4.4m)の南北棟の掘立柱建物で、北側柱列は第154次調査で検出している。方位はN18°Eとなる。柱間寸法は、桁行1.6~2.5m、梁行2.2mである。重複関係からSB10974より新しく、SK10969より古い。柱穴からは、斎宮Ⅲ-2~4期の遺物(第Ⅱ-7図181~184)が出土している。

④ 土坑・溝等

SK10947 調査区の西側、SB10950の南側で検出した楕円形の土坑で、東西幅0.9m、南北幅0.6m、深さ0.1m以上となる。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ期以降の遺物が出土している。

SK10969 調査区の東側、SB10970の北西側で検出した楕円形の土坑で、東西幅1.35m、南北幅2.4m、深さ0.15mであるが、内部に東西幅0.7m、南北幅0.9m、深さ0.4mのピット状の落ち込みがみられる。ピット内およびその周辺には0.2~0.3m程の多数の礫が散乱していた。重複関係からSB10998より新しい。斎宮Ⅲ-2~3期の遺物(第Ⅱ-8図

185～194) が出土している。

SK10971 調査区の東側、SB10970の南西側で検出した楕円形の土坑で、東西幅1.2m、南北幅1.2m、深さ0.25mである。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ-2～3期の遺物(第Ⅱ-8図195～198)が出土している。

SK10972 調査区の東側、SB10985の西側で検出した楕円形の土坑で、東西幅1.45m、南北幅2.4m以上で南側は調査区外に続く。深さは、場所によって底面形状が異なり、浅い場所では0.15m、深い場所では0.3mである。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ-2～4期の遺物(第Ⅱ-8図199～202)が出土している。

SK10973 調査区の東側、SB10998の北東側で検出した楕円形の土坑で、北側は第154次調査で検出している。東西幅1.1m、南北幅1.6m、深さ0.1m以上である。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-8図203～205)が出土している。

SK10976 調査区の東側、SB10977・10978の北側で検出した楕円形の土坑で、北側は調査区外に続く。東西幅2.15m、南北幅1.0m以上、深さ0.3mである。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ-3～4期の遺物(第Ⅱ-8図206～212)が出土している。

SK10979 調査区の東側、SB10977の南東内部で検出した倒卵形の土坑で、東西幅0.8m、南北幅1.2m、深さ0.07m以上である。重複関係はみられない。斎宮Ⅲ期の遺物(第Ⅱ-8図213)が出土している。

SK10986 調査区の南東側、SB10984の南東側、SB10985の北西側で検出した楕円形の土坑で、西側は調査区外に続く。東西幅1.6m以上、南北幅1.15m、深さ0.2mである。重複関係からSF10999の西側溝SD9864より新しい。斎宮Ⅲ-2～3期の遺物(第Ⅱ-8図214～225)が出土している。

SK10987 調査区の東側、SB10980の北東内部で検出した楕円形の土坑で、東西幅1.0m、南北幅1.7m、深さ0.15mで、重複関係はみられない。斎宮Ⅲ-2期以降の遺物(第Ⅱ-8図226)が出土している。

(4) 時期不明の遺構

SK10981 調査区の東側、SB10978・10980の南西で検出した楕円形の土坑で東西幅0.9m、南北幅1.0m、深さ0.05m以上である。重複関係はみられない。遺物はほとんど出土しなかったが、周囲の建物に付随して掘削された土坑であれば、Ⅲ期以降の可能性が高いと考えられる。

SD10992 調査区の南東側で検出した幅0.15m、長さ2.3m以上の南北方向の溝で、深さ0.05mである。重複関係はみられない。遺物はほとんど出土しなかったため、時期は不明である。

SD10996 調査区の南東側で検出した幅0.35m、長さ6.8m以上の南北方向の溝で、深さ0.1～0.15mである。SA10997と重複するが、先後関係はわからなかった。遺物はほとんど出土しなかったため、時期は不明である。

遺構名	調査時 遺構名	ピット番号 ※()はグリッド番号	遺物 時期	規模		柱間寸法 (m)	柱掘形 (m)	主軸	方位 (N標準)	備考
				間(m)	間(m)					
SA 10946	柱列1	(n19)P1/(m20)P1/(n20)P3	Ⅲ-3	3以上 (6.7)		2.0~2.1	0.3~0.4	南北	N 17° E	
SB 10950	建物1	(p19)P1,P4/(n20)P1,P2/(o20)P2,P3,P4 (p20)P1/(o21)P1/(p21)P1	Ⅲ-3~ Ⅲ-4	2	(4.8) × 2 (4.0)	(桁行)1.8~2.55 (梁行)2.05~2.1 (西庇)1.9 (東庇)2.15	0.3~0.4	東西	N 18° E	部分総柱
SB 10970	建物3	(s20)P4/(t20)P2,P11,P14/(u20)P9,P14 (s21)P2,P5/(t21)P1,P2,P16/(u21)P6/ (t22)P6	Ⅲ-3~ Ⅲ-4	3	(7.4) × 3 (6.0)	(桁行)2.4~2.5 (梁行)1.9~2.1	0.3~0.5	東西	N 17° E	部分総柱
SB 10974	建物4	(t20)P6/(t21)P3,P15/(u21)P2/(u22)P1	Ⅱ-4~ Ⅲ-3	3	(5.5) × 2 (4.6)	(桁行)1.4~2.1 (梁行)2.1~2.4	0.4~0.6	南北	N 22° E	SD9864より新 SB10998より古
SB 10975	建物5	(t20)P5/(u20)P5/(t21)P7,P13/(u21)P8 ,P12/(u22)P15	Ⅲ	3	(5.8) × 2 (4.7)	(桁行)1.55~2.35 (梁行)2.4~2.45	0.3~0.5	南北	N 25° E	SD9864より新
SB 10977	建物6	(u20)P16/(u21)P11,P18,P20/(v21)P17 (v22)P4	Ⅲ以降	3	(6.0) × 2 (4.0)	(桁行)1.9~2.2 (梁行)1.8~2.2	0.3~0.4	南北	N 18° E	SD9864・10982より新
SB 10978	建物7	(v20)P4/(w20)P2/(u21)P10,P21/(v21) P6,P10,P12,P13/(u22)P10/(v22)P6,P8	Ⅱ-3~ Ⅲ	3	(5.6) × 2 (4.1)	(桁行)1.5~2.3 (梁行)2.0~2.1	0.3~0.5	南北	N 15° E	SD10982より新
SB 10980	建物8	(v21)P1,P14/(w21)P5,P8,P14/(u22)P9 (v22)P7,P8,P16	Ⅲ-3~ Ⅲ-4	3	(6.5) × 2 (4.4)	(桁行)2.05~2.4 (梁行)2.2	0.3~0.4	東西	N 16° E	SD10982より新
SB 10983	建物12	(t22)P10/(u23)P4,P8,P12,P16/(u24) P10/(v23)P12	Ⅱ-4~ Ⅲ-1	3 以上	(5.4) 以上 × 2 (3.5)	(桁行)1.7~1.9 (梁行)1.75?	0.4~0.6	東西	N 18° E	SD9864・10982より新
SB 10984	建物13	(t23)P1/(u23)P2,P4	Ⅲ以降	3	(5.8) × 1 以上 (2.15) 以上	(桁行)1.8~2.15 (梁行)2.15	0.3~0.5	東西?	N 16° E	SD9864・10982・SB10985より 新
SB 10985	建物11	(t22)P3/(u22)P4,P13/(v22)P15/(u23) P3,P23	Ⅲ以降	3	(7.85) × 2 (4.35)	(桁行)2.5~2.8 (梁行)2.1~2.25	0.5~0.7	東西	N 15° E	SD10982より新 SB10984より古
SB 10988	建物14	(w22)P1,P20/(v23)P17/(w23)P2,P6	Ⅱ-4~ Ⅲ-1	3	(5.4) × 2 (3.35)	(桁行)1.4~2.35 (梁行)1.6~1.8	0.2~0.4	南北	N 16° E	SI10990より古
SB 10989	建物15	(v22)P6,P18,P20/(w22)P8,P9,P15,P16 (v23)P2,P6,P8,P9/(w23)P1,P7,P11, P13/(w24)P7	Ⅱ~Ⅲ	4~5	(6.0) × 3 (5.45)	(桁行)1.4~1.65 (梁行)1.5~2.0	0.3~0.5	南北	N 16° E	SI10990の覆い屋
SB 10993	建物9	(w21)P10,P11/(x21)P3/(x22)P2	Ⅲ	2 以上	(4.1) 以上 × 2 (3.9)	(桁行)2.0 (梁行)1.8~2.1	0.3~0.4	南北	N 20° E	SB10994より古
SB 10994	建物10	(w21)P12/(x21)P4/(x22)P1	Ⅲ	2 以上	(4.1) 以上 × 2 (3.9)	(桁行)2.0 (梁行)1.8~2.1	0.3~0.4	南北	N 20° E	SB10993より新
SB 10995	建物16	(u24)P1,P5,P12/(v24)P5/(w24)P2/ (v25)P1	Ⅲ以降	4	(8.45) × 1 以上 (2.0) 以上	(桁行)1.95~2.15 (梁行)2.0 (庇間)2.2	0.3~0.6	東西	N 16° E	SD10991より古 片面庇付建物か? 柵か?
SA 10997	建物17	(x24)P7,P14/(x25)P2	Ⅲ以降	2以上 (3.7)		1.7~2.0	0.3~0.5	南北?	N 22° E	掘立柱建物か? SD10996と重複
SB 10998	建物2	(s20)P2/(u20)P1/(s21)P8/ (t21)P6,P10,P20	Ⅲ-2~ Ⅲ-4	3	(6.5) × 2 (4.4)	(桁行)1.6~2.5 (梁行)2.2	0.3~0.5	南北	N 18° E	SB10974より新 SK10969より古

第Ⅱ-1表 第188次調査 掘立柱建物一覧表

遺構名	調査時 遺構名	グリッド	遺物時期	出土遺物	備考
SD 9859	溝7	r19～21、q21～22	Ⅲ-2以降	土師器杯・小皿・甕・甔、ロクロ土師器碗・小皿、須恵器、灰釉陶器碗・瓶類、黒色土器、志摩式製塩土器、土鏝	SZ10951・10961・10962・10964・SK10955・SD10967より新
SD 9864	溝4	v24、u20～25	Ⅱ-3以前	土師器杯・小皿・甕・甔、灰釉陶器碗・瓶類、陶器山茶碗、転用硯(Ⅲ期以降の遺物混入)	SA9861・SB10974・10975・10983・10984・SK9860・10986より古
SK 10947	土坑12	o21	Ⅲ以降	土師器杯・鍋	SB10950と関連か？
SD 10948	溝17	p20～22、q19～21	Ⅲ-1～2	土師器杯・甕、陶器山茶碗、白磁小碗	SD10949・SZ10960より新
SD 10949	溝18	q19	不明	土師器	SD10948・SZ10960より古
SZ 10951	落込16	q20～21	Ⅱ-4	土師器杯・碗・高杯・甕、須恵器盤・甕、灰釉陶器碗、黒色土器	SK10952～10956より新 SD9859より古
SK 10952	土坑22	q21	不明	土師器	SK10953より新 SZ10951より古
SK 10953	土坑25	q20～21	Ⅱ-4？	土師器杯、須恵器盤	SZ10951・SK10952より古
SK 10954	土坑24	q20～21	不明	土師器	SK10956より新 SZ10951より古
SK 10955	土坑21	q21	不明	土師器、須恵器甕	SD9859・SZ10951より古
SK 10956	土坑20	q21	Ⅱ-4	土師器杯・甕、灰釉陶器碗	SZ10951・SK10954より古
SZ 10957	土坑26	p21～22、q21～22	Ⅱ-4～Ⅲ-2？	土師器台付碗	SZ10959より古
SZ 10958	落込36	q20～22	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器杯、ロクロ土師器台付皿、須恵器甕、灰釉陶器碗・瓶類	SZ10959より古
SZ 10959	落込13	p22、q21～22	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器杯・甕・甔・円筒形土器、須恵器盤・甕、灰釉陶器碗・壺、志摩式製塩土器、鉄滓	SZ10957・10958より新
SZ 10960	落込15	q19	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器杯・皿・高杯・鍋、ロクロ土師器碗、須恵器甕、灰釉陶器碗	SZ10961・10964より新 SD10948より古
SZ 10961	落込19	q19、r19	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器鍋・甕	SZ10962より新 SD9859・SZ10960より古
SZ 10962	落込9	r19	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器杯・甕、須恵器甕、灰釉陶器碗	SD9859・SZ10961より古
SZ 10963	土坑14	q20	Ⅱ-2～Ⅱ-3 (混入)	土師器杯・鍋、灰釉陶器、滑石	SK10965・SZ10966より新
SZ 10964	落込8	q19～20、r20	Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器碗、須恵器甕	SD9859・SZ10960より古
SK 10965	土坑37	q20	Ⅱ-4	土師器杯	SZ10963・10966より古
SZ 10966	土坑23	q20	Ⅱ-4以降	ロクロ土師器台付杯、須恵器甕、緑釉陶器	SK10965より新 SZ10963より古
SD 10967	溝5	r19～21、s20	Ⅱ-3以前	土師器皿・杯・甕、須恵器甕、土鏝	SD9859より古
SK 10968	土坑3	r20	Ⅱ-4	土師器皿	
SK 10969	土坑1	s20、t20	Ⅲ-2～Ⅲ-3	土師器杯・台付皿・鍋、ロクロ土師器小皿、須恵器甕、灰釉陶器碗、瓦器碗、白磁、鉄製品	SB10998より新
SK 10971	土坑6	s21	Ⅲ-2～Ⅲ-3	土師器杯・台付小皿、ロクロ土師器、陶器山皿、鉄製品	
SK 10972	土坑10	s22、t22	Ⅲ-2～Ⅱ-4	土師器小皿・甕・鍋、ロクロ土師器小皿、灰釉陶器碗・壺、黒色土器碗	
SK 10973	土坑2	u20	Ⅲ	ロクロ土師器、瓦器碗、須恵器	
SK 10976	土坑27	v20	Ⅲ-3～Ⅲ-4	土師器杯・小皿・鍋、ロクロ土師器、灰釉陶器碗・瓶類、瓦器碗、土鏝	
SK 10979	土坑28	v21	Ⅲ	土師器杯・小皿・鍋、灰釉陶器、白磁、石鏝	
SK 10981	土坑11	v22	不明	土師器	
SD 10982	溝30	u23～24、v20～25、w20	Ⅱ-4以前	土師器高杯・鍋、灰釉陶器碗・瓶類、緑釉陶器、陶器山茶碗、瓦器	SB10977・10978・10980・10983・10984・10985より古
SK 10986	土坑29	u23～24	Ⅲ-2～3	土師器杯・小皿・高杯・甕・鍋、ロクロ土師器杯、須恵器甕、灰釉陶器碗・小碗、緑釉陶器	SD9864より新
SK 10987	土坑32	w21	Ⅲ-2以降	土師器皿、灰釉陶器小碗	
SI 10990	堅穴31	v22～23、w22～23	Ⅲ-4以降	土師器杯・小皿・鍋、ロクロ土師器杯、灰釉陶器碗、緑釉陶器、陶器山茶碗・山皿、土鏝、白玉石、鉄製品、鉄滓	SB10988より新
SD 10991	溝33	v23～24	不明	土師器、灰釉陶器	SB10995より新 SI10990と一連か？
SD 10992	溝35	w24	不明	土師器	
SD 10996	溝34	x24～25、y23～25	不明	土師器	SA10997と重複
SF 10999	—	u20～25、v20～25	Ⅱ-3以前		西側溝SD9864・東側溝SD10982
SF 11000	—	q19、r19～21	Ⅱ-3以前		西側溝SD10949・東側溝SD10967
SF 11001	—	p20～22、q19～20、r19～21	Ⅱ-4～Ⅳ		西側溝SD10948・東側溝SD9859

第Ⅱ-2表 第188次調査 遺構一覧表

4 遺物

遺物はコンテナバット60箱分が出土しており、主に平安時代後期から鎌倉時代の遺物がある(第II-5~11図)。

(1) 平安時代前期以前の遺構出土遺物

SF10999・SD9864出土遺物(1~10) 1~6は土師器で、1・2は杯D、3・4は皿D、5は甕あるいは鍋の口縁部、6は甌。斎宮III-2~3期に相当する。7・8は灰釉陶器椀、9は白磁椀の口縁部、10は陶器山茶椀の高台部。土師器以外も概ね斎宮III期以降を中心とする。

先述した通り、SD9864は重複関係から斎宮II-4期よりも古く、またこれらの斎宮III期以降の遺物はいずれも小片であるため、周囲の遺構等から混入したものと考えられる。

SF10999・SD10982出土遺物(11~14) 全て土師器で、11は椀あるいは杯の口縁部、12は皿、13・14は甕あるいは鍋の口縁部である。いずれも小片のため、正確な時期は不明である。

SF11000・SD10967出土遺物(15~17) 15・16は土師器で、15は杯A、16は皿Aの口縁部で、小片のため正確な時期は不明だが、斎宮II-3期以前のものであり、斎宮II-4期の遺構より古くなる重複関係とも矛盾しない。17は管状土錘。

(2) 平安時代中~後期前半の遺構出土遺物

SZ10951出土遺物(18~21) 18は土師器高杯の杯口縁部、19は須恵器盤の口縁部。19はSK10953出土の22と同一個体と考えられる。20・21は灰釉陶器の高台部、20は椀、21は皿で、斎宮II-1期のものか。

SZ10951および下層遺構群の出土遺物は、概ね斎宮II-4期頃にまとまりをみせる。SZ10951の19とSK10953の22が同一個体の可能性と考えられることから、各遺構群がほぼ時期差なく掘削されたとみられる。

SK10953出土遺物(22) 22は須恵器盤の口縁部。先述したSZ10951出土の19と形状等が類似し、同一個体と考えられる。斎宮II-4期に相当する。

SK10955出土遺物(23) 23は土師器杯Aの口縁部で、斎宮II-4期に相当する。

SK10956出土遺物(24) 24は灰釉陶器椀の高台部で、斎宮II-4期に相当する。

SZ10958出土遺物(25~31) 25は土師器皿D、26はロクロ土師器の小型杯の柱状高台部で、斎宮III-1~2期に相当す

る。27は土師器の鍋と考えられるもので口縁端部を外反により肥厚させている。28~31は灰釉陶器の高台部で、28は皿、29・30は椀、31は瓶類。

SZ10959出土遺物(32~46) 32~41は土師器で、33・35~37は杯A、32・34は椀Aで、斎宮II-4期に相当する。38・39は甕、40は甌の底部。41は円筒形土器で、わずかに残る底部は平底である。42~44は須恵器で、42は瓶類の台部、43は甕の体部、44は平底甕の底部。45・46は灰釉陶器で、45は椀の高台部、46は広口瓶の頸部。

SZ10960出土遺物(47~51) 47・48は土師器で、47は杯A、48は高杯の脚部。斎宮II-4期頃のものか。49はロクロ土師器椀の高台部、50は灰釉陶器椀、51は緑釉陶器椀の高台部。

SZ10961出土遺物(52~53) 52・53は土師器で、52は甕、53は鉢。正確な時期は不明である。

SZ10962出土遺物(54~57) 54~56は土師器で、54・55は杯A、56は椀で、斎宮II-4~III-1期に相当する。57は灰釉陶器椀の高台部。

SZ10963出土遺物(58・59) 58・59は土師器で、58は杯A、59は椀。59は内面に斜め方向の暗文が施される。斎宮II-2~3期以前に相当するが、重複関係とは矛盾し、混入したものと考えられる。

SZ10964出土遺物(60) 60は須恵器瓶類の肩部。正確な時期は不明である。

SK10965出土遺物(61・62) 61・62は土師器杯Aで、斎宮II-4~III-1期に相当する。

SZ10966出土遺物(63) 63は土師器の高台部で、正確な時期は不明であるが、斎宮II-4期以降のものともみられる。

SB10983出土遺物(64~74) 64~72は土師器で、64~68・71は杯A、69・70は甕あるいは鍋の口縁部、72は皿D。斎宮II-4~III-1期に相当する。73は須恵器甕の体部、74は管状土錘。

SB10988出土遺物(75) 75は土師器杯Aで、斎宮II-4~III-1期に相当する。

SK10968出土遺物(76) 76は土師器皿Aで、斎宮II-4期に相当する。

(3) 平安時代後期前半以降の遺構出土遺物

SF11001・SD9859出土遺物(77~104) 77~91は溝の下層から出土した遺物。77~79は土師器で、77・78は杯D、79は皿D。80~90はロクロ土師器で、80は杯A、81~85は小皿、86~90は柱状高台の小型杯。斎宮III-2期に相当する。91は

須恵器甕の口縁部。

92～104は上層から出土した遺物。92～97は土師器で、92・93は杯D、94・95は皿D、96は甑の底部、97は甕の口縁部。98～100はロクロ土師器で、98は椀の高台部、99は小皿、100は小型杯の柱状高台部。101は陶器の瓶類の底部、102・103は灰釉陶器椀の高台部。いずれも斎宮Ⅲ-1期前後に相当する。104は管状土錘。

SB10980出土遺物 (156～158) 156は土師器皿D、157は灰釉陶器小椀の口縁部、158はロクロ土師器皿の底部。斎宮Ⅲ-3～4期に相当する。

SB10984出土遺物 (159～161) 159・160は土師器で、159は台付椀などの台部、160は甕あるいは鉢。161は灰釉陶器椀の口縁部。斎宮Ⅲ期以降に相当する。

SF11001・SD10948出土遺物 (105～108) 105～107は土師器で、105は杯D、106は椀C、107は鍋あるいは鉢。斎宮Ⅲ-1期～Ⅳ期のものとみられる。108は灰釉陶器椀の高台部。

SI10990出土遺物 (109～134) 109・110は炉の焼土面からの出土で、109は陶器山皿の口縁部、110は土師器鍋の口縁部。斎宮Ⅲ-4期以降に相当する。

111～134は埋土から出土した遺物である。111～115・117は土師器で、111・112は杯D、113～115は皿D、117は鍋の口縁から肩部。116・119はロクロ土師器で、116は皿の底部、119は椀の高台部。概ね斎宮Ⅲ-3～4期に相当する。118は須恵器甕の体部、120～123は灰釉陶器椀の高台部、124・125は陶器山茶椀の高台部。127～129は緑釉陶器椀の口縁部、126は管状土錘。130～134は鉄製品で、130は刀子、131～133は釘、134は不明製品。

SB10989出土遺物 (135・136) 135・136は土師器。135は杯あるいは椀で、内面に斜め方向の暗文がみられる。136は鍋の口縁部。ともに細片のため、正確な時期は不明である。

SA10946出土遺物 (137) 137は土師器皿Dで、斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SB10950出土遺物 (138～140) 全て土師器で138・139は杯、140は甕か。138は斎宮Ⅲ-2期以降に相当する。

SB10970出土遺物 (141～148) 141～146は土師器で、141は杯D、142～145は皿D、146は椀C。斎宮Ⅲ-3期に相当する。147はロクロ土師器小皿の底部、148は須恵器甕の体部。

SB10974出土遺物 (149・150) 149は土師器杯Aで、斎宮Ⅱ-4期に相当する。150はロクロ土師器小型杯の柱状高台部で、斎宮Ⅲ-3期以降に相当する。遺構の時期としては後者であろうか。

SB10975出土遺物 (151・152) 151はロクロ土師器椀の口縁部。152は灰釉陶器椀の口縁部か。斎宮Ⅲ期のものとみられる。

SB10978出土遺物 (153～155) 153は土師器高杯の脚部、154は土師器甕の頸部、155は灰釉陶器椀か皿の高台部。斎宮Ⅱ-3期～Ⅲ期のものとみられる。

SB10980出土遺物 (156～158) 156は土師器皿D、157は灰釉陶器小椀の口縁部、158はロクロ土師器皿の底部。斎宮Ⅲ-3～4期に相当する。

SB10984出土遺物 (159～161) 159・160は土師器で、159は台付椀などの台部、160は甕あるいは鉢。161は灰釉陶器椀の口縁部。斎宮Ⅲ期以降に相当する。

SB10985出土遺物 (162～175) 162～167・171は土師器で、162・163は杯D、164・165は皿D、166・167は台付椀の台部、171は鍋の口縁部。168～170はロクロ土師器で、168は椀、169は台付杯などの台部、170は杯の底部。斎宮Ⅲ-1～4期の土器が混在する。172は灰釉陶器椀の底部、173～175は管状土錘。

SB10993出土遺物 (176～178) 176は管状土錘。177は土師器皿D、178は灰釉陶器皿の台部。斎宮Ⅲ期のものとみられる。

SB10994出土遺物 (179) 179は灰釉陶器椀の口縁部。斎宮Ⅲ期以降に相当する。

SA10997出土遺物 (180) 180は灰釉陶器小椀の口縁部。斎宮Ⅲ期以降に相当する。

SB10998出土遺物 (181～184) 181～183は土師器で、181・182は杯D、183は皿D。斎宮Ⅲ-2～4期に相当する。184は胎土の粗い土製品で、器壁に凹凸や条痕がみられる。土壁の可能性はある。

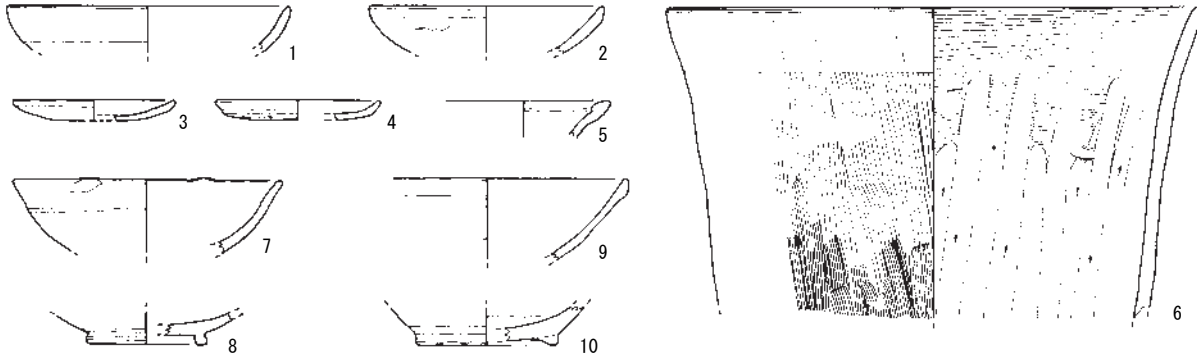
SK10969出土遺物 (185～194) 185～187・190・191は土師器で、185・186は杯D、187は皿D、190・191は甕。188・189はロクロ土師器小皿の底部。斎宮Ⅲ-2～3期に相当する。192は瓦器椀の底部、193は灰釉陶器椀の底部、194は鉄製釘の胴部。

SK10971出土遺物 (195～198) 195～197は土師器で、195は椀C、196・197は杯B。斎宮Ⅲ-2～3期に位置づけられる。198は鉄製刀子の刀身部か。

SK10972出土遺物 (199～202) 199は土師器皿D、200はロクロ土師器小皿。斎宮Ⅲ-2期以降のものとみられる。201・202は灰釉陶器で、201は椀、202は小瓶。

SK10973出土遺物 (203～205) 203はロクロ土師器小皿の底部、204は瓦器椀の口縁部。斎宮Ⅲ期のものとみられる。205は須恵器の壺。

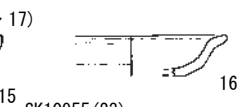
SF10999・SD9864 (1 ~ 10)



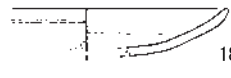
SF10999・SD10982 (11 ~ 14)



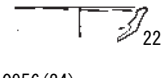
SF11000・SD10967 (15 ~ 17)



SZ10951 (18 ~ 21)



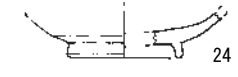
SK10953 (22)



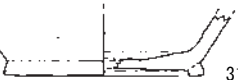
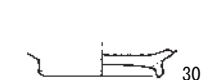
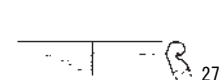
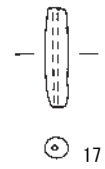
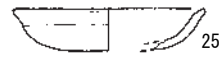
SK10955 (23)



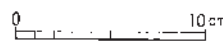
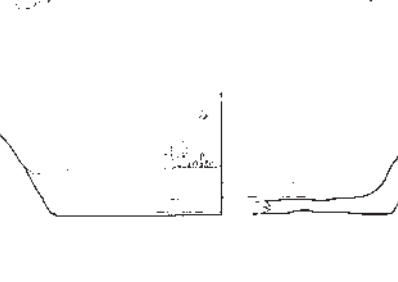
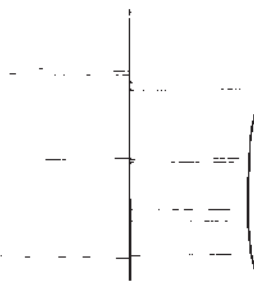
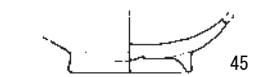
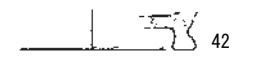
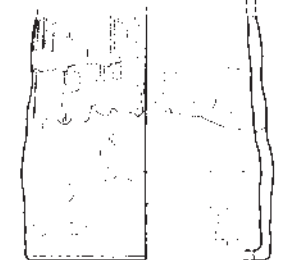
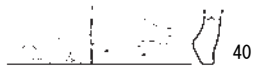
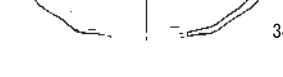
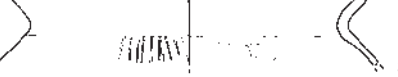
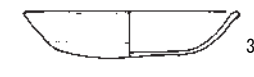
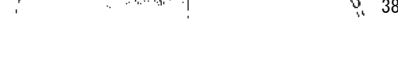
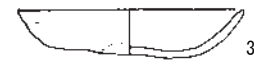
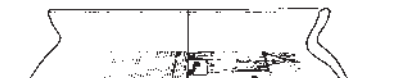
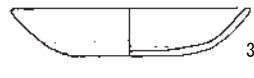
SK10956 (24)



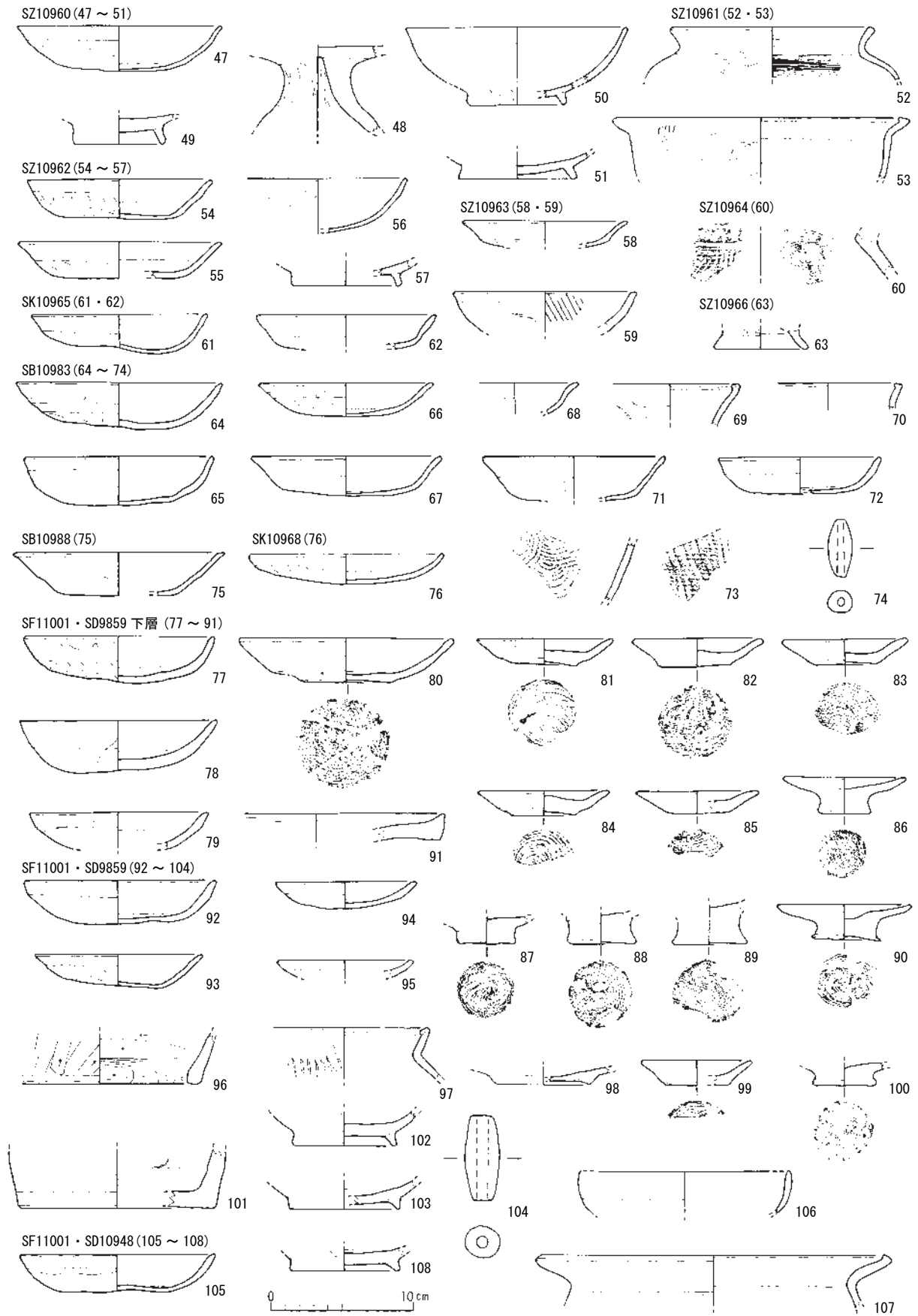
SZ10958 (25 ~ 31)



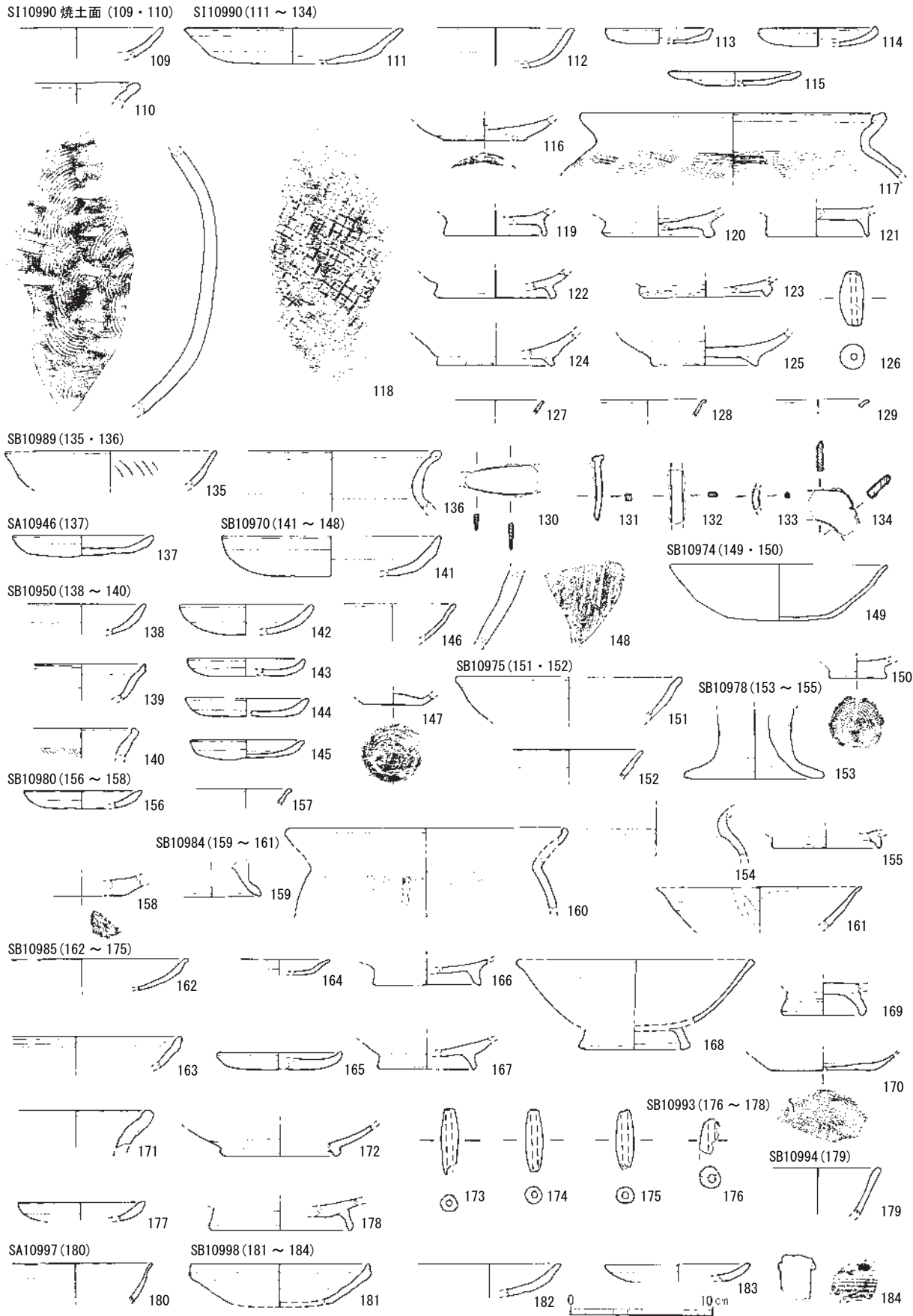
SZ10959 (32 ~ 46)



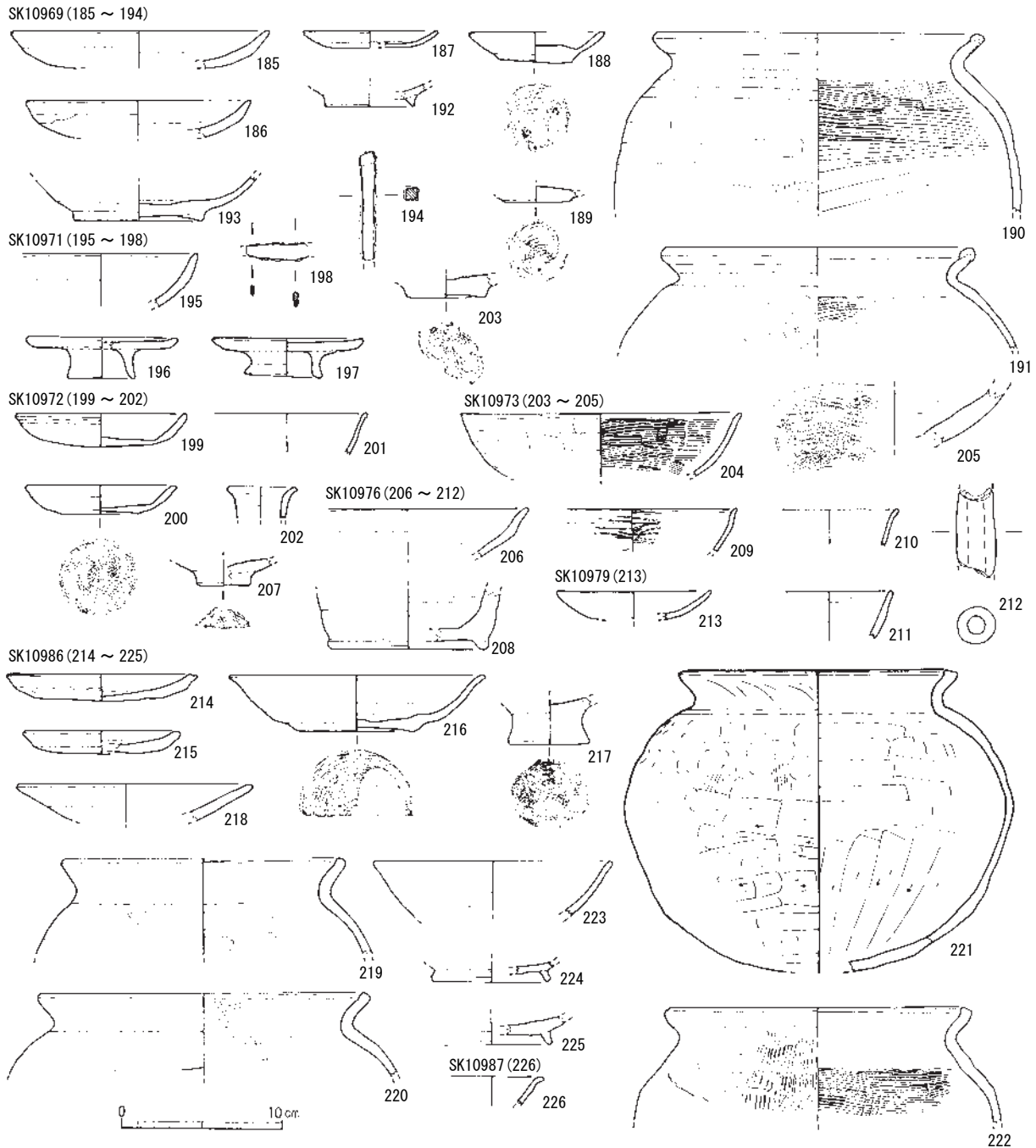
第II-5図 第188次調査 出土遺物実測図1 (1/4)



第Ⅱ-6図 第188次調査 出土遺物実測図2 (1/4)



第Ⅱ-7図 第188次調査 出土遺物実測図3 (1/4)



第Ⅱ-8図 第188次調査 出土遺物実測図4 (1/4)

SK10976出土遺物 (206~212) 206は土師器杯D、207はロクロ土師器小型杯の底部。斎宮Ⅲ-1~2期に相当する。

208・210・211は灰釉陶器で、208は瓶類の底部、210・211は碗の口縁部。209は瓦器碗の口縁部、212は管状土錘。

SK10979出土遺物 (213) 213は白磁皿で、斎宮Ⅲ期のものとみられる。

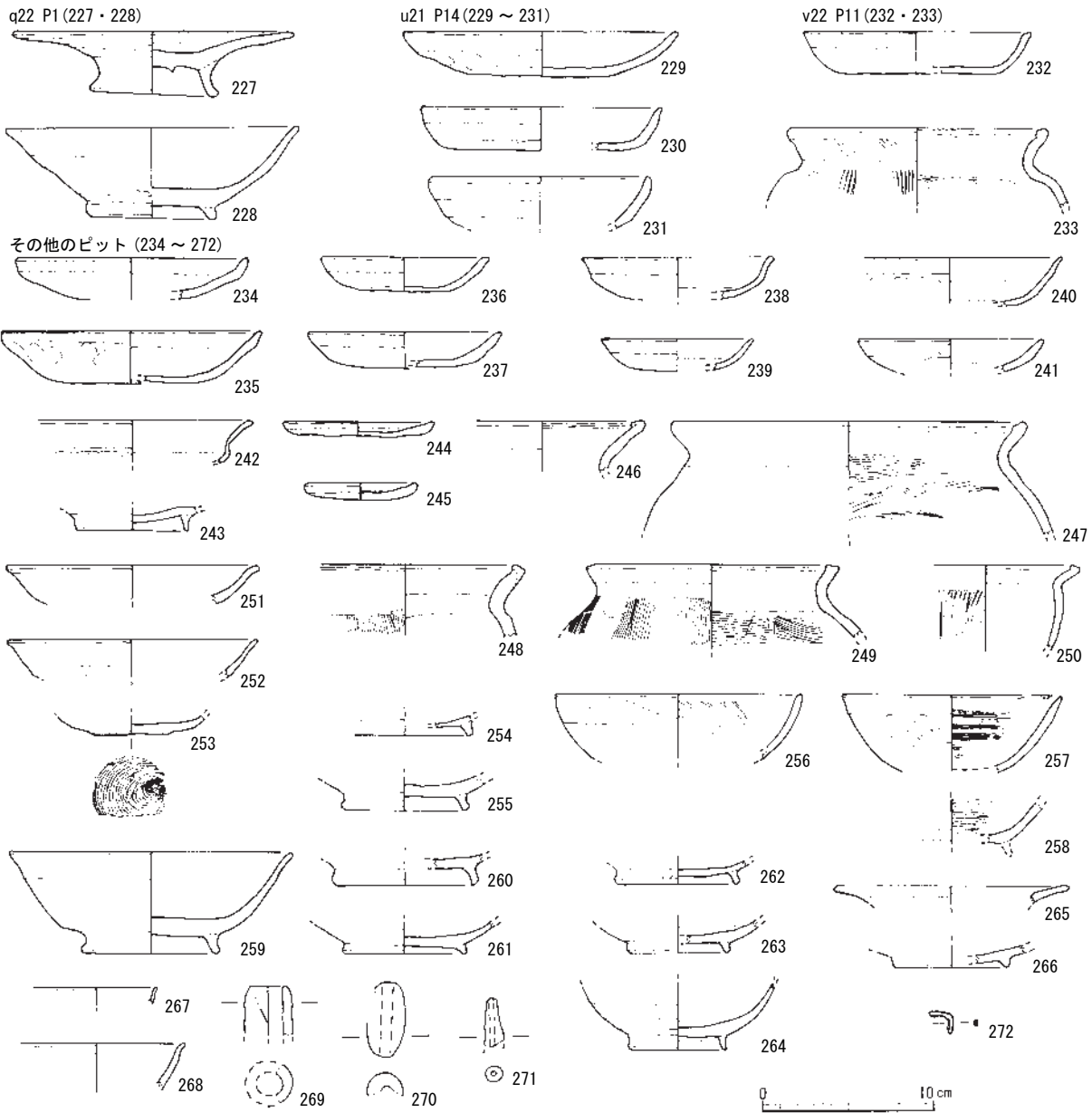
SK10986出土遺物 (214~225) 214・215・219~222は土師器で、214・215は皿D、219~222は甕。216~218はロク

ロ土師器で、216は杯、217は小型杯、218は台付杯。これらは、斎宮Ⅲ-2~3期に相当する。223~225は灰釉陶器碗。

SK10987出土遺物 (226) 226は灰釉陶器碗。斎宮Ⅲ-2期以降のものである。

q22P1出土遺物 (227・228) 227はロクロ土師器台付皿、228は陶器山茶碗。これらは、斎宮Ⅲ-2期に相当する。

u21P14出土遺物 (229~231) 229~231は土師器で、229は杯D、230は皿D、231は碗C。これらは、斎宮Ⅲ-1期のもの



第Ⅱ-9図 第188次調査 出土遺物実測図5(1/4)

とみられる。

v22P11出土遺物(232・233) 232は土師器皿D、233は土師器甕。これらは、斎宮Ⅲ-1期のものとみられる。

その他のピット出土遺物(234～272) 234～242・244～250・257は土師器で、235・240・242は杯、234・236～239・241・244・245は皿、246～249は甕および鍋、250は鉢。257は碗で、器形や調整技法は黒色土器と類似するが、内外面共に黒色化していない。

243・251～255はロクロ土師器で、243・254・255は碗、

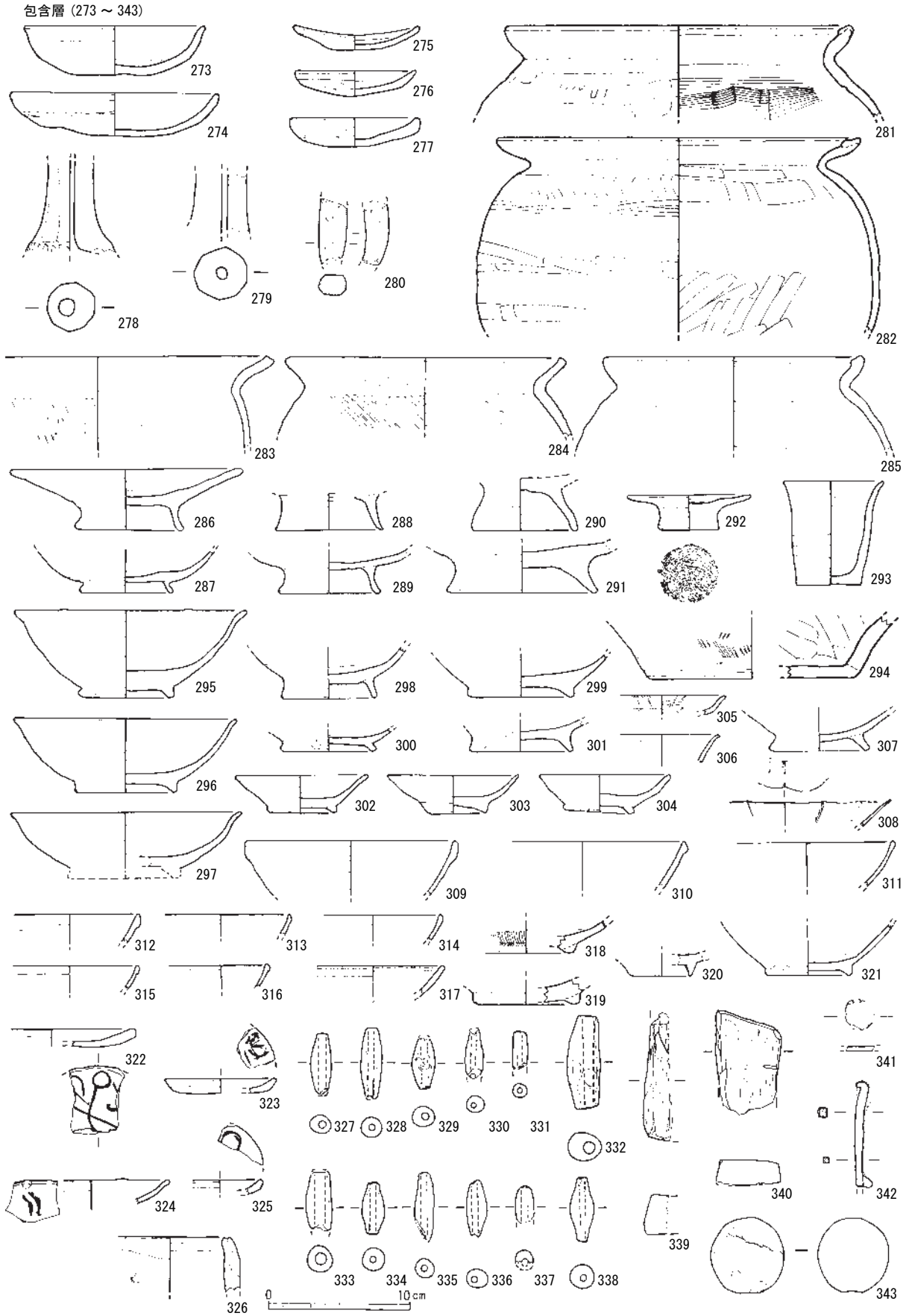
251～253は杯。256・258は黒色土器碗で、内面にヘラミガキがみられる。

259～266は灰釉陶器で、259～264は碗、265は段皿、266は皿。

267は緑釉陶器小碗。268は白磁碗。

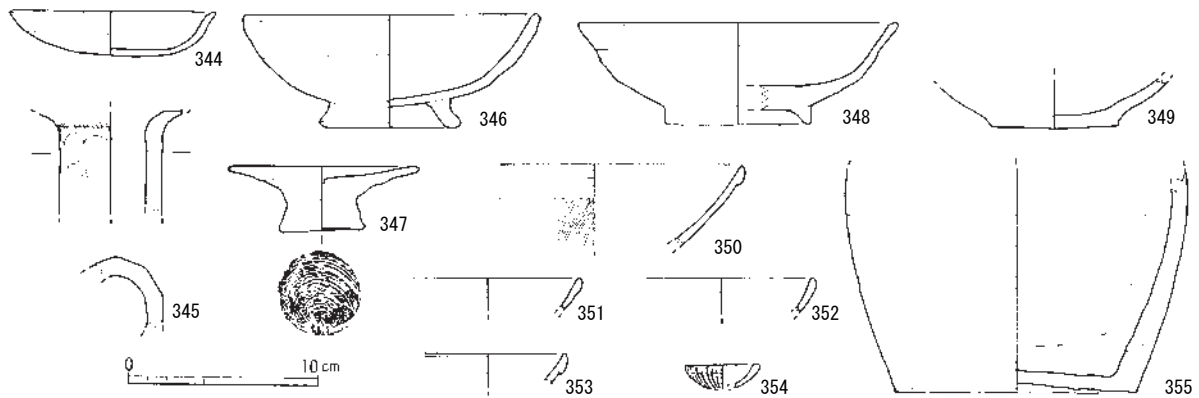
269～271は管状土錘、272は不明鉄製品。

包含層出土遺物(273～343) 273～279・281～285は土師器で、273は碗C、274は杯D、275～277は皿D、278・279は高杯の脚部、281・282・284・285は甕および鍋、283は鉢。



第II-10図 第188次調査 出土遺物実測図6(1/4)

表土 (344～355)



第Ⅱ－11図 第188次調査 出土遺物実測図7(1/4)

280は土製品の脚部で、土馬の可能性はある。

286～292はロクロ土師器で、287は椀、286・288～291は台付杯、292は小型杯。

293・294は須恵器で、293は壺あるいはコップ形を呈するとみられる。294は平底甕の底部。298・300は灰釉陶器の椀。

295～297・299・301～304は陶器で、295～297・299・301は山茶椀、302～304は山皿。

305は瓦器皿、306は緑釉陶器椀、307は黒色土器椀の底部。

308～317・341は白磁である。308は輪花椀で、口縁端部を波状にし、稜線により輪花を表現している。309～316は椀、317は皿。341は、加工円盤である。

318～321は青磁で椀等の底部。

322～325は墨書土器で322・323・325はいずれも土師器皿に絵画の様な墨書がみられる。324は灰釉陶器皿で、外面に2列の>の墨書がみられる。

326は志摩式製塩土器。327～338・343は土製品で、327～338は管状土錘、343は土玉。土玉は1か所を面取りしており、自立が可能である。

339・340は砥石の破片で、339は砂岩製、340は泥岩製。342は鉄製品の釘。

表土出土遺物 (344～355) 344～346は土師器で、344は皿D、345は高杯の脚部、346は台付椀。347はロクロ土師器の小型杯、348は灰釉陶器の椀、349は陶器の山皿、355は瓶類の底部。350～353は白磁、354は青白磁の紅皿。

5 まとめ

この調査で、古代伊勢道から南に派生する南北道路の確認など、広頭地区の実態解明が進んだ。特に平安時代前期以前(SF11000)、平安時代後期以降(SF11001)の二時期に南北道路が敷設されたことは、方格街区に隣接する地区の性格と関連する可能性がある。

(1) 広頭地区の古代伊勢道南側派生道路

古代伊勢道から南に派生する道路には、古里地区から中垣内地区へと伸びるSF8945(第30次・141次等)が既に知られている。しかしSF8945は、中垣内地区の方角区画(飛鳥・奈良時代の斎宮中区域)の機能が、史跡東部の鍛冶山西区画(方格街区)に移行する奈良時代後期には衰退したと考えられる。

一方で今回確認したSF11000は、出土遺物は希薄であるものの、重複関係も含め平安時代前期にまで遡り得る。古代伊勢道とSF11000の交差点付近では、SF11000が埋没してから平安時代後期にSF11001が掘削されるまでの間に、多数の落ち込みや土坑、ピットが路面・側溝部を問わず掘削されていることが、第154次調査で明らかになっている。

こうした様相は、方格街区の西加座北区画の東側南北道路東側溝と北辺道路南側溝の交差点(第80次調査)等と酷似しており、方角街区の区画道路と同様に継続的な道路利用、廃絶から再整備がこの道路でも行われた可能性を示している。

方格街区から約100m西に離れた地点に南北道路が設置された理由としては、近鉄山田線の南で確認された奈良時代後期の柱間約3mの大型柱列SA10821（第185-11次）に注目したい。SA10821は方格街区から約100m西に位置し、古代伊勢道からは約400m離れている。両者間の調査が少ない現状で直接的に関連付けることは難しいが、方格街区が造成される前後の時期に、大型柱列からなる何らかの施設と古代伊勢道を繋ぐ道路が敷設された可能性を考えておきたい。

安時代後期～末期の成果が目立つ。近鉄山田線の南で四脚門SB700と付随する溝群（第15次調査）が、さらに方格街区の西側隣接地で規則的に建ち並んだ建物群とそれらを区画する溝（第59次調査）が確認されている。特に第59次調査の溝からは、二次被熱がみられる緑釉陶器（大型器種を含む）が多数出土しており、衰退の進む方格街区の公的施設の一部が広頭地区に移された可能性もあるSF11001には、こうした平安時代後期～末期の斎宮の諸施設と古代伊勢道を繋ぐ役割があり、一度は廃絶したSF11000と同じ場所に再度敷設されたと考えられる。

(2) 平安時代後期～末期の広頭地区

Ⅲ-1期以降にはSF11001が敷設されるが、広頭地区では平

番号	器種	器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号	
1	土師器	杯D	SF10999西側溝 SD9864	口径 残高	14.6 2.5	外面：ヨコナデ・ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部 2/12		003-06
2	土師器	杯D	SF10999西側溝 SD9864	口径 残高	12.1 2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 2/12		004-02
3	土師器	皿D	SF10999西側溝 SD9864	口径 高さ	8.4 1.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 8/12		004-03
4	土師器	皿D	SF10999西側溝 SD9864	口径 高さ	8.5 1.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰黄褐 10YR6/2	口縁部 2/12		004-01
5	土師器	甕or鍋	SF10999西側溝 SD9864	残高	2.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 1/12		003-05
6	土師器	甕	SF10999西側溝 SD9864	口径 残高	27.8 16.5	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヘラケズリ・タテナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/12		003-01
7	灰釉陶器	椀	SF10999西側溝 SD9864	口径 残高	13.8 3.9	外面：ロクロナデ・輪花文 内面：ロクロナデ	密	良	釉：鶯色818 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 2/12		003-02
8	灰釉陶器	椀	SF10999西側溝 SD9864	底径 残高	5.8 1.8	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 3/12		003-03
9	白磁	椀	SF10999西側溝 SD9864	残高	4.4	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：水縹993 素地：灰白5Y7/1	口縁部 1/12未満		041-03
10	陶器	山茶椀	SF10999西側溝 SD9864	底径 残高	6.9 2.2	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付・モミガラ圧痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：鶯色818 素地：灰白2.5Y7/1	底部 2/12		003-04
11	土師器	椀or杯	SF10999東側溝 SD10982	残高	3.6	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁部 1/12未満		019-09
12	土師器	皿	SF10999東側溝 SD10982	口径 残高	13.9 2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12		019-04
13	土師器	甕or鍋	SF10999東側溝 SD10982	残高	3.2	外面：タテハケ（摩滅）・ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 1/12		019-05
14	土師器	甕or鍋	SF10999東側溝 SD10982	残高	3.1	外面：ヨコナデ・煤付着 内面：ヨコナデ	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	口縁部 1/12未満		019-06
15	土師器	杯A	SF11000東側溝 SD10967	残高	2.7	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満		004-06
16	土師器	皿A	SF11000東側溝 SD10967	残高	2.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12未満		004-04
17	土製品	土錘	SF11000東側溝 SD10967	長さ 幅	5.3 1.2	重さ7.35g、孔径0.25cm	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	ほぼ完形		004-05
18	土師器	高杯	SZ10951	残高	2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・ハケ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12未満		014-07
19	須恵器	盤	SZ10951	残高	1.2	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	22と同一か	014-04
20	灰釉陶器	椀	SZ10951	底径 残高	6.5 2.1	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 2/12		014-05
21	灰釉陶器	皿	SZ10951	底径 残高	7.2 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：薊茶815 素地：黄灰2.5Y6/1	底部 1/12		014-06
22	須恵器	盤	SK10953	残高	1.6	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	19と同一か	015-08
23	土師器	杯A	SK10955	残高	2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 2/12		015-06
24	灰釉陶器	椀	SK10956	底径 残高	5.6 2.5	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 3/12		015-05
25	土師器	皿D	SZ10958	口径 高さ	9.9 2.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 1/12未満		020-04
26	ロクロ 土師器	小型杯	SZ10958	底径 残高	4.4 1.9	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 4/12		020-05

第Ⅱ-3表 第188次調査 遺物観察表1

番号	器種	器形	地区 遺構	法量 (cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
27	土師器	鍋?	SZ10958	残高	1.8	外面:ヨコハク・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 1/12		020-03
28	灰釉陶器	皿	SZ10958	底径 残高	7.0 1.2	外面:ロクロケズリ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 2/12		020-02
29	灰釉陶器	椀	SZ10958	底径 残高	8.4 2.2	外面:ロクロケズリ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ・漆付着	密	良	釉:しゅろ色765 素地:灰黄2.5Y7/2	底部 1/12		019-08
30	灰釉陶器	椀	SZ10958	底径 残高	8.9 1.3	外面:ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ・墨痕	密	良	釉:鶯茶815 素地:灰白2.5Y7/1	底部 7/12		019-07
31	灰釉陶器	瓶類	SZ10958	底径 残高	9.1 3.2	外面:ロクロケズリ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	釉:鶯色818 素地:灰黄2.5Y6/2	底部 4/12		020-01
32	土師器	椀A	SZ10959 No. 1	口径 高さ	13.7 3.1	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 8/12		012-05
33	土師器	杯A	SZ10959	口径 高さ	13.9 3.3	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	ほぼ完形		012-04
34	土師器	椀A	SZ10959	口径 高さ	13.0 3.4	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ・黒色化	密	良	淡黄2.5Y8/3	口縁部 2/12		011-04
35	土師器	杯A	SZ10959	口径 高さ	12.4 2.5	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	口縁部 11/12		012-03
36	土師器	杯A	SZ10959	口径 高さ	11.8 2.6	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	完形		011-01
37	土師器	杯A	SZ10959	口径 高さ	11.1 2.5	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	ほぼ完形		012-02
38	土師器	甕	SZ10959 下層	口径 残高	14.5 5.2	外面:タテハク・ヨコナデ 内面:ヨコハク・ヨコナデ	密	良	にぶい橙10YR7/4	口縁部 2/12		011-06
39	土師器	甕	SZ10959	口径 残高	18.6 4.0	外面:タテハク・ヨコナデ・煤付着 内面:ヨコハク・ヨコナデ・煤付着	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 4/12		011-03
40	土師器	甕	SZ10959	残高	2.5	外面:オサエ・ナデ 内面:ヘラケズリ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	細片		013-04
41	土師器	円筒形 土器	SZ10959	底径 残高	11.8 13.0	外面:タテハク・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・オサエ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 1/12		011-05
42	須恵器	瓶類	SZ10959	残高	1.9	外面:ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ・墨痕	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	底部 1/12		011-02
43	須恵器	甕	SZ10959	残高	9.1	外面:平行タタキ 内面:当て具痕・ナデ	密	良	灰7.5Y6/1	細片	大甕	012-01
44	須恵器	甕	SZ10959	底径 残高	17.4 6.0	外面:平行タタキ・ヘラケズリ・ヨコナデ・ナデ 内面:ナデ	密	良	黄灰2.5Y5/1	底部 1/12		013-02
45	灰釉陶器	椀	SZ10959	底径 残高	6.2 2.8	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ・重ね焼き痕	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 9/12	外面墨痕	013-03
46	灰釉陶器	広口瓶	SZ10959	残高	13.9	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:威光茶990 素地:灰黄2.5Y7/2	頸部 10/12		013-01
47	土師器	杯A	SZ10960	口径 高さ	14.1 3.2	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 5/12		014-02
48	土師器	高杯	SZ10960	残高	6.1	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	脚部		014-10
49	ロクロ 土師器	椀	SZ10960	底径 残高	6.0 2.1	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部 8/12		014-01
50	灰釉陶器	椀	SZ10960	底径 推定高	6.5 5.5	外面:ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	釉:灰白946 素地:灰白2.5Y7/1	口縁部・ 底部1/12		014-03
51	緑釉陶器	椀	SZ10960	底径 残高	7.9 1.9	外面:ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	釉:香櫨緑833 素地:灰黄2.5Y6/1	底部 7/12		041-01
52	土師器	甕	SZ10961	口径 残高	13.9 3.7	外面:タテハク・ヨコナデ 内面:ヨコハク・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12		015-04
53	土師器	鉢	SZ10961	口径 残高	19.7 4.4	外面:タテハク・ヨコナデ 内面:板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12		015-03
54	土師器	杯A	SZ10962	口径 高さ	12.8 2.8	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙7.5YR7/4	口縁部 7/12		010-02
55	土師器	杯A	SZ10962	口径 高さ	13.8 2.6	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 3/12		010-03
56	土師器	椀	SZ10962	残高	5.2	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満		010-01
57	灰釉陶器	椀	SZ10962	底径 残高	7.2 1.4	外面:ロクロケズリ・糸切痕・高台貼付 内面:ロクロナデ	密	良	釉:ねこやなぎ825 素地:灰黄灰10YR6/2	底部 1/12		010-04
58	土師器	杯	SZ10963	口径 残高	11.3 1.9	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 2/12		013-05
59	土師器	椀	SZ10963	口径 残高	12.4 2.8	外面:ヨコハク・ヨコナデ 内面:ヨコナデ・斜暗文	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部 1/12		013-06
60	須恵器	瓶類	SZ10964	残高	3.0	外面:タタキ・ヨコナデ 内面:当て具痕・ヨコナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	肩部 細片		009-05
61	土師器	杯A	SK10965 No. 1	口径 高さ	12.2 2.8	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ完形		016-01
62	土師器	杯A	SK10965	口径 残高	12.4 2.4	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12		016-02
63	土師器	器種 不明	SZ10966	底径 残高	6.2 1.4	外面:ロクロケズリ 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部 2/12		015-07
64	土師器	杯A	SB10983 t22P10	口径 高さ	14.2 3.3	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 3/12		029-01
65	土師器	杯A	SB10983 t22P10	口径 高さ	13.0 3.5	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部 4/12		029-02
66	土師器	杯A	SB10983 t22P10	口径 高さ	12.0 2.4	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12		029-05
67	土師器	杯A	SB10983 t22P10	口径 高さ	13.1 2.8	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 7/12		029-04
68	土師器	杯A	SB10983 t22P10	残高	2.2	外面:ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12未満		029-08
69	土師器	甕or鍋	SB10983 v23P12	残高	2.8	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12未満		030-01
70	土師器	甕or鍋	SB10983 u24P10	残高	1.6	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR5/4	口縁部 1/12未満		030-02

第Ⅱ-4表 第188次調査 遺物観察表2

番号	器種	器形	地区 遺構	分量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
71	土師器	杯A	SB10983 t22P10	口径 高さ	12.7 3.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙5YR7/4	口縁部 3/12	029-03
72	土師器	皿D	SB10983 t22P10	口径 高さ	11.2 2.6	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 3/12	029-06
73	須恵器	甕	SB10983 u24P10	残高	4.1	外面：格子状タタキ 内面：同心円文当て具痕	密	良	黄灰2.5Y6/1	細片	029-07
74	土製品	土錘	SB10983 u23P16	長さ 幅	4.1 1.7	重さ8.93g、孔径0.6cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	完形	030-03
75	土師器	杯A	SB10988 w22P20	口径 高さ	14.3 3.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 3/12	030-07
76	土師器	皿A	SK10968 No. 1	口径 高さ	13.3 2.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 10/12	002-06
77	土師器	杯D	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ	13.1 3.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完形	007-03
78	土師器	杯D	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ	13.6 3.7	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 6/12	007-04
79	土師器	皿D	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 残高	12.3 2.6	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 3/12	008-01
80	ロクロ 土師器	杯A	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	14.6 3.1 6.1	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 6/12	007-05
81	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	9.3 1.9 4.6	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	ほぼ完形	005-06
82	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	8.8 2.0 5.2	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 7/12	007-06
83	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	8.4 1.8 4.4	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	008-06
84	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	8.9 1.8 4.6	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙7.5YR6/4	口縁部 3/12	008-05
85	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	8.3 1.6 4.6	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 3/12	008-04
86	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	8.2 2.7 3.0	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12 底部11/12	009-03
87	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 残高	3.6 1.9	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	底部 7/12	009-01
88	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 残高	4.3 2.2	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 ほぼ完形	008-07
89	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 残高	4.9 3.0	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 5/12	009-02
90	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859下層	口径 高さ 底径	9.2 2.6 4.6	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部9/12 底部8/12	009-04
91	須恵器	甕	SF11001東側溝 SD9859下層	残高	2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	008-02
92	土師器	杯D	SF11001東側溝 SD9859	口径 器高	13.3 3.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 9/12	006-05
93	土師器	杯D	SF11001東側溝 SD9859	口径 器高	11.6 2.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 3/12	006-06
94	土師器	皿D	SF11001東側溝 SD9859	口径 器高	9.7 1.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	ほぼ完形	006-04
95	土師器	皿D	SF11001東側溝 SD9859	口径 残高	9.1 1.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 1/12	006-07
96	土師器	甕	SF11001東側溝 SD9859上層	残高	3.7	外面：ヘラケズリ・ナデ 内面：ヘラケズリ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	底部 1/12未満	006-03
97	土師器	甕	SF11001東側溝 SD9859	残高	3.6	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ(摩滅)・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	005-04
98	ロクロ 土師器	椀	SF11001東側溝 SD9859	口径 残高	6.4 1.2	外面：ロクロケナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	底部 5/12	007-01
99	ロクロ 土師器	小皿	SF11001東側溝 SD9859上層	口径 高さ 底径	7.5 1.8 4.3	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部1/12 未満 底部3/12	006-02
100	ロクロ 土師器	小型杯	SF11001東側溝 SD9859上層	口径 残高	3.9 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	底部 11/12	006-01
101	陶器	瓶類	SF11001東側溝 SD9859	口径 残高	13.4 4.2	外面：ロクロナデ・底部未調整 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部 1/12	007-02
102	灰釉陶器	椀	SF11001東側溝 SD9859	口径 残高	6.9 2.4	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：苔色837 素地：灰白2.5Y7/1	底部 3/12	005-03
103	灰釉陶器	椀	SF11001東側溝 SD9859	口径 残高	7.5 2.1	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：オリブ色816 素地：灰白2.5Y7/1	底部 3/12	008-03
104	土製品	土錘	SF11001東側溝 SD9859	長さ 幅	6.0 2.5	重さ28.21g、孔径0.75cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	005-05
105	土師器	杯D	SF11001西側溝 SD10948	口径 器高	13.6 2.7	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 5/12	014-08
106	土師器	椀C	SF11001西側溝 SD10948	口径 残高	14.7 3.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・煤付着 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12	015-02
107	土師器	鍋or鉢	SF11001西側溝 SD10948	口径 残高	24.0 3.8	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ(摩滅)・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12	015-01
108	灰釉陶器	椀	SF11001西側溝 SD10948	口径 残高	7.3 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：にぶい黄橙 10YR6/3	底部 1/12未満	014-09
109	陶器	山皿	SI10990焼土面	残高	1.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	023-02
110	土師器	鍋	SI10990焼土面	残高	1.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12未満	023-03

第Ⅱ－５表 第188次調査 遺物観察表3

番号	器種	器形	地区 遺構	分量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
111	土師器	杯D	SI10990	口径 器高	15.1 2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 10/12	023-01
112	土師器	杯D	SI10990	残高	2.8	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12未満	021-09
113	土師器	皿D	SI10990	口径 器高	7.3 1.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 5/12	021-08
114	土師器	皿D	SI10990	口径 器高	8.1 1.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部 3/12	021-06
115	土師器	皿D	SI10990	口径 器高	9.1 1.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部 2/12	022-01
116	ロクロ 土師器	皿	SI10990	底径 残高	5.6 1.6	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	底部 3/12	021-05
117	土師器	鍋	SI10990	口径 器高	21.2 4.6	外面：ヨコハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ・煤付着	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 2/12	021-07
118	須恵器	甕	SI10990	残高	18.7	外面：格子状タタキ・オサエ・ナデ 内面：同心円文当て具痕・オサエ・ナデ	密	良	自然釉：乳白945 素地：暗灰黄2.5Y5/2	体部片	022-02
119	ロクロ 土師器	椀	SI10990	底径 残高	7.0 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	底部 4/12	021-04
120	灰釉陶器	椀	SI10990	底径 残高	7.2 1.9	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y8/2	底部 3/12	020-06
121	灰釉陶器	椀	SI10990	底径 残高	7.0 2.0	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	底部 1/12	021-01
122	灰釉陶器	椀	SI10990	底径 残高	8.0 1.9	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 2/12	021-02
123	灰釉陶器	椀?	SI10990	底径 残高	8.6 1.2	外面：高台貼付 内面：ロクロナデ・見込面朱付着?	密	良	釉：代替色761 素地：灰黄2.5Y6/2	底部 1/12	021-03
124	陶器	山茶椀	SI10990	底径 残高	7.8 2.5	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/1	底部 1/12	020-08
125	陶器	山茶椀	SI10990	底径 残高	7.2 2.3	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 2/12	020-07
126	土製品	土錘	SI10990	長さ 幅	3.9 1.7	重さ11.71g、孔径0.4cm	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	完形	022-03
127	緑釉陶器	椀?	SI10990	残高	0.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰黄褐10Y5/2	口縁部 1/12未満	042-07
128	緑釉陶器	椀?	SI10990	残高	1.2	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：山鳩色822 素地：灰黄褐10Y5/2	口縁部 1/12未満	042-05
129	緑釉陶器	椀?	SI10990	残高	0.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰黄褐10Y5/2	口縁部 1/12未満	042-06
130	鉄製品	刀子?	SI10990	残長 幅	5.1 2.0	厚さ0.2cm	—	—	—	刀身部 9/12	043-07
131	鉄製品	釘	SI10990	残長 幅	4.6 0.8	厚さ0.4cm	—	—	—	先端部 欠損	巻頭? 043-05
132	鉄製品	釘?	SI10990	残長 幅	3.8 0.8	厚さ0.25cm	—	—	—	胴部のみ	043-04
133	鉄製品	釘?	SI10990	残長 幅	1.5 0.45	厚さ0.35cm	—	—	—	胴部のみ	043-06
134	鉄製品	不明品	SI10990	残長 幅	2.3	厚さ0.5cm	—	—	—	不明	043-08
135	土師器	杯or椀	SB10989 w22P8	口径 残高	14.6 2.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・暗文	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12	031-01
136	土師器	鍋	SB10989 w23P11	残高	4.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12未満	030-08
137	土師器	皿D	SA10946 n19P1 No.1	口径 器高	9.7 1.6	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 10/12	023-04
138	土師器	杯	SB10950 n20P1	残高	2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	023-05
139	土師器	杯A	SB10950 p21P1	残高	2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・沈線 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	023-06
140	土師器	甕?	SB10950 n20P2	残高	2.1	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満	023-07
141	土師器	杯D	SB10970 u20P9	口径 器高	15.4 2.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 2/12	024-04
142	土師器	皿D	SB10970 t21P2	口径 器高	9.3 2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12	032-01
143	土師器	皿D	SB10970 t20P2	口径 器高	8.0 1.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部 2/12	024-06
144	土師器	皿D	SB10970 t20P2	口径 器高	8.5 1.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 4/12	024-03
145	土師器	皿D	SB10970 t22P6	口径 器高	7.8 1.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄2.5YR8/3	ほぼ完形	024-02
146	土師器	椀C	SB10970 t21P16	残高	2.2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・黒色化	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満	024-05
147	ロクロ 土師器	小皿	SB10970 t21P16	底径 残高	4.2 0.9	外面：ロクロケズリ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	底部 ほぼ完形	024-07
148	須恵器	甕	SB10970 t20P2	残高	5.4	外面：タタキ 内面：オサエ・ナデ	密	良	黄灰2.5Y5/2	胴部 細片	024-08
149	土師器	杯A	SB10974 u21P2 No.1	口径 器高	15.1 4.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・油煙付着 内面：ヨコナデ・ナデ・油煙付着	密	良	浅黄橙10YR8/4	ほぼ完形	025-02
150	ロクロ 土師器	小型杯	SB10974 t21P15	底径 残高	3.4 1.4	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 ほぼ完形	025-03
151	ロクロ 土師器	椀	SB10975 u21P8	口径 残高	15.6 3.1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい橙10YR6/4	口縁部 1/12	025-04
152	灰釉陶器	椀?	SB10975 u21P12	残高	2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：抹茶色838	口縁部 1/12未満	025-05
153	土師器	高杯	SB10978 v20P4	底径 残高	8.8 5.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 1/12	025-07
154	土師器	甕	SB10978 u22P10	残高	3.0	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	頸部 細片	025-06

第Ⅱ－6表 第188次調査 遺物観察表4

番号	器種	器形	地区 遺構	分量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
155	灰釉陶器	碗or皿	SB10978 v22P8	底径 残高	7.3 1.3	外面：ロクロナデ・貼付高台 内面：ロクロナデ・重ね焼き痕	密	良	釉：抹茶色838 素地：灰白2.5Y7/1	底部 1/12未満	026-01
156	土師器	皿D	SB10980 w21P5	口径 器高	8.2 1.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12	026-03
157	灰釉陶器	小碗	SB10980 w21P5	残高	1.1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：裏薬色855	口縁部 1/12未満	026-02
158	ロクロ 土師器	皿	SB10980 v21P1	残高	1.4	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y5/1	底部1/12	026-04
159	土師器	台付 碗?	SB10984 u23P2	残高	2.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部 1/12未満	030-05
160	土師器	甕or鉢	SB10984 t23P1	口径 残高	19.6 5.8	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 1/12	030-04
161	灰釉陶器	碗	SB10984 u23P2	口径 残高	14.2 2.9	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：苔色837 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12	030-06
162	土師器	杯D	SB10985 v22P5	残高	2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 1/12未満	027-03
163	土師器	杯D	SB10985 u22P4	残高	2.2	外面：ヨコナデ・沈線 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	027-07
164	土師器	皿D	SB10985 u23P3	残高	1.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12未満	028-01
165	土師器	皿D	SB10985 u22P4	口径 器高	8.6 1.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 3/12	027-04
166	土師器	台付碗	SB10985 v22P15	底径 残高	7.4 1.9	外面：ヨコナデ・高台貼付 内面：ナデ	密	良	橙5YR7/6	底部 1/12未満	027-01
167	土師器	台付碗	SB10985 v22P15	底径 残高	6.7 2.2	外面：ヨコナデ・高台貼付 内面：ナデ	密	良	灰白10YR8/2	底部 2/12	027-02
168	ロクロ 土師器	碗	SB10985 u22P4	口径 器高 底径	16.2 6.5 5.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12未満 底部3/12	027-05 027-08
169	ロクロ 土師器	台付杯? 台部	SB10985 t22P3	底径 残高	5.6 2.3	外面：ヨコナデ・高台貼付 内面：ナデ	密	良	灰白10YR8/2	底部 1/12	028-03
170	ロクロ 土師器	杯	SB10985 u22P4	底径 残高	6.7 1.2	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部 4/12	028-02
171	土師器	鍋	SB10985 v22P15	残高	2.6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 1/12未満	027-06
172	灰釉陶器	碗	SB10985 u22P13	底径 残高	7.8 2.3	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：抹茶色838 素地：灰白10Y7/1	底部 1/12	026-08
173	土製品	土錘	SB10985 u22P4	長さ 幅	4.7 1.2	重さ3.83g、孔径0.4cm	密	良	橙7.5YR7/6	ほぼ完形	028-05
174	土製品	土錘	SB10985 u22P4	長さ 幅	4.4 1.2	重さ4.46g、孔径0.5cm	密	良	明赤褐5YR5/6	完形	028-04
175	土製品	土錘	SB10985 u22P4	長さ 幅	4.3 1.3	重さ4.8g、孔径0.45cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形	028-06
176	土製品	土錘	SB10993 w21P11	長さ 幅	2.5 1.2	重さ1.55g、孔径0.55cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	円周 4/12	026-09
177	土師器	皿D	SB10993 w21P11	口径 残高	9.0 1.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙7.5YR7/4	口縁部 2/12	026-06
178	灰釉陶器	皿	SB10993 x21P3	底径 残高	9.8 2.1	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰白2.5Y7/1	底部 1/12	026-05
179	灰釉陶器	碗	SB10994 x22P10	残高	3.4	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：苔色837 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	026-07
180	灰釉陶器	小碗	SA10997 x24P17	残高	2.5	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：緑色系 素地：黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	031-02
181	土師器	杯D	SB10998 t21P20	口径 残高	12.5 2.8	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	023-08
182	土師器	杯D	SB10998 v20P1柱痕	残高	2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 1/12未満	023-09
183	土師器	皿D	SB10998 s21P8	口径 残高	10.0 1.2	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 2/12	023-10
184	土製品	土壁?	SB10998 s20P2	長さ 幅	3.2 3.3	外面：糸痕 内面：未調整	粗	一	にぶい黄7.5YR5/4	細片	024-01
185	土師器	杯D	SK10969	口径 残高	15.9 2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	口縁部 1/12	001-04
186	土師器	杯D	SK10969	口径 残高	13.8 2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 2/12	001-07
187	土師器	皿D	SK10969	口径 器高	8.1 1.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12	001-05
188	ロクロ 土師器	小皿	SK10969 No. 1	口径 器高 底径	8.1 2.0 4.4	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完形	002-01
189	ロクロ 土師器	小皿	SK10969	底径 残高	4.2 1.1	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 完形	002-02
190	土師器	甕	SK10969 No. 2	口径 残高	19.8 11.3	外面：タテハケ・板ナデ・ヨコナデ・煤付着 内面：ヨコハケ・板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 2/12	001-03
191	土師器	甕	SK10969 No. 4	口径 残高	19.0 6.4	外面：タテハケ（摩滅）・ヨコナデ 内面：ヨコハケ（摩滅）・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 2/12	001-02
192	瓦器	碗	SK10969	底径 残高	5.3 1.4	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	灰N4/	底部 4/12	001-06
193	灰釉陶器	碗	SK10969 No. 5	底径 残高	7.6 2.8	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：鶯茶814 素地：灰白2.5Y7/1	底部 完形	001-01
194	鉄製品	釘	SK10969	長さ 幅	6.8 0.7	厚さ0.7cm	一	一	一	胴部のみ	043-01
195	土師器	碗C	SK10971	残高	3.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満	005-02
196	土師器	杯B	SK10971 上面	口径 器高 底径	9.1 2.6 3.9	外面：ヨコナデ・高台貼付・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部1/12 底部4/12	005-01

第Ⅱ－7表 第188次調査 遺物観察表5

番号	器種	器形	地区 遺構	量 目	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
197	土師器	杯B	SK10971 上面	口径 器高 底径 9.1 2.5 4.5	外面：ヨコナデ・高台貼付・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完形		004-07
198	鉄製品	刀子?	SK10971	長さ 幅 3.9 1.0	厚さ0.25cm	—	—	—	刀身部 8/12		043-02
199	土師器	皿D	SK10972	口径 器高 2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 7/12		010-05
200	ロクロ 土師器	小皿	SK10972 No. 1	口径 器高 底径 9.1 1.8 4.6	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	ほぼ完形		010-06
201	灰釉陶器	椀	SK10972	残高 2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満		010-08
202	灰釉陶器	小瓶	SK10972	口径 残高 4.1 2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰白7.5Y7/1	口縁部 2/12		010-07
203	ロクロ 土師器	小皿	SK10973	口径 残高 4.6 1.4	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰褐7.5YR5/2	底部 5/12		002-05
204	瓦器	椀	SK10973	口径 残高 17.2 3.9	外面：ヘラケズリ・ヨコナデ 内面：ヨコミガキ・ヨコナデ	密	良	灰N4/	口縁部 1/12		002-03
205	須恵器	壺?	SK10973	残高 3.3	外面：縄目タタキ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	暗灰N3Y	胴部 細片		002-04
206	土師器	杯D	SK10976	残高 3.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12未満		016-04
207	ロクロ 土師器	小型杯	SK10976	口径 残高 3.0 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	底部 4/12		016-05
208	灰釉陶器	瓶類	SK10976	口径 残高 9.4 3.8	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：海松茶817 素地：灰黄2.5Y7/2	底部 1/12		016-03
209	瓦器	椀	SK10976	残高 2.7	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	密	良	灰N4/	口縁部 1/12未満		016-06
210	灰釉陶器	椀	SK10976	残高 2.3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	灰白5Y8/1	口縁部 1/12未満		016-08
211	灰釉陶器	椀	SK10976	残高 3.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ・沈線2条	密	良	灰白N8/	口縁部 1/12未満		016-10
212	土製品	土錘	SK10976	長さ 幅 5.6 2.4	重さ23.44g、孔径1.1cm	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	両端 欠ける		016-07
213	白磁	皿	SK10979	口径 残高 9.5 1.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：裏葉色855 素地：灰白5Y7/1	口縁部 1/12		042-04
214	土師器	皿D	SK10986 No. 7	口径 器高 11.0 1.7	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部 6/12		018-03
215	土師器	皿D	SK10986	口径 器高 9.3 1.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 3/12		017-03
216	ロクロ 土師器	杯	SK10986 No. 1	口径 器高 底径 15.6 3.5 7.0	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y8/3	口縁部 2/12		018-06
217	ロクロ 土師器	小型杯	SK10986 No. 6	口径 残高 4.7 2.9	外面：ロクロナデ・糸切痕(摩滅) 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	底部 4/12		019-03
218	ロクロ 土師器	台付杯	SK10986	口径 残高 14.2 2.3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部 1/12		019-02
219	土師器	甕	SK10986 No. 4	口径 残高 16.9 6.0	外面：タテハケ(摩滅)・ヨコナデ 内面：板ナデ(摩滅)・ヨコナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 2/12		017-02
220	土師器	甕	SK10986	口径 残高 19.8 5.1	外面：板ナデ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ(摩滅)・ヨコナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 1/12		018-02
221	土師器	甕	SK10986 No. 5	口径 残高 15.9 18.9	外面：ヘラケズリ・タテハケ・ヨコナデ・煤付着 内面：ヘラケズリ・板ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 5/12		017-01
222	土師器	甕	SK10986 No. 3	口径 残高 18.3 7.2	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 2/12		018-01
223	灰釉陶器	椀	SK10986	口径 残高 14.7 3.3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12		018-05
224	灰釉陶器	椀	SK10986	口径 残高 7.0 1.2	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部 1/12		018-07
225	灰釉陶器	椀	SK10986	残高 1.7	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：山鳩色822 素地：灰黄2.5Y6/2	底部 1/12未満		019-01
226	灰釉陶器	椀	SK10987	残高 1.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：抹茶色838 素地：灰白10YR8/2	口縁部 1/12未満		019-10
227	ロクロ 土師器	台付皿	q22P1 No. 2	口径 器高 底径 15.8 3.9 6.8	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・高台貼付・オサエ ・ヨコナデ 内面：ロクロケズリ・ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部10/12 底部ほぼ完 形		025-01
228	陶器	山茶椀	q22P1 No. 1	口径 器高 底径 16.8 5.4 7.0	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：香織緑833 素地：灰黄2.5Y7/2	口縁部3/12 底部完形		031-05
229	土師器	杯D	u21P14	口径 器高 15.8 2.7	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 4/12		032-08
230	土師器	皿D	u21P14	口径 器高 13.9 2.6	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 1/12		032-09
231	土師器	椀C	u21P14	口径 残高 12.7 3.0	外面：ヘラケズリ・ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 2/12		033-01
232	土師器	皿D	v22P11 No. 1	口径 器高 13.1 2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 4/12		033-09
233	土師器	甕	v22P11 No. 2	口径 残高 14.8 4.6	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 3/12		034-01
234	土師器	皿D	u20P11	口径 残高 13.4 2.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12		032-05
235	土師器	杯	u22P21	口径 器高 14.9 3.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 1/12		033-03
236	土師器	皿D	u23P1 No. 1	口径 器高 9.5 2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	浅黄2.5Y8/3	ほぼ完形		033-04
237	土師器	皿D	u24P2	口径 器高 11.1 2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 3/12		033-07
238	土師器	皿D	v23P5	口径 残高 10.9 2.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12		034-04

第Ⅱ－8表 第188次調査 遺物観察表6

番号	器種	器形	地区 遺構	量 目	量 目	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
239	土師器	皿D	w23P12	口径 器高	8.8 1.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	淡橙5YR8/4	口縁部 2/12		034-08
240	土師器	杯	w23P9	残高	2.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12未満		035-01
241	土師器	皿D	x22P5	口径 残高	10.7 2.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 3/12		035-02
242	土師器	杯A	x22P9	残高	2.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 1/12未満		035-05
243	ロクロ 土師器	椀	w22P6	底径 残高	6.5 1.4	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y4/1	底部 1/12		034-05
244	土師器	皿D	t20P1	口径 器高	8.5 0.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 4/12		031-08
245	土師器	皿D	u21P17	口径 器高	6.2 1.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部 2/12		032-06
246	土師器	甕	u23P12	残高	3.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 1/12未満		033-05
247	土師器	鍋	v22P1	口径 残高	20.2 6.7	外面：タテハケ（摩滅）・ヨコナデ 内面：ヨコハケ（摩滅）・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 1/12		034-02
248	土師器	甕	x22P9	残高	3.9	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12未満		035-04
249	土師器	甕	x24P1	口径 残高	13.6 4.3	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 2/12		035-07
250	土師器	鉢	x24P3	残高	5.0	外面：タテハケ（摩滅）・ヨコナデ 内面：ヨコハケ（摩滅）・ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満		036-01
251	ロクロ 土師器	杯	o20P1	口径 残高	14.4 2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12		031-03
252	ロクロ 土師器	杯	s19P1	口径 残高	14.5 2.2	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 2/12		031-06
253	ロクロ 土師器	杯	t21P4	底径 残高	3.9 1.2	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 8/12		032-04
254	ロクロ 土師器	椀	u22P14	残高	1.2	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	底部 1/12未満		032-07
255	ロクロ 土師器	椀	u24P9	底径 残高	6.9 2.0	外面：ロクロケズリ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部 6/12		033-08
256	黒色土器	椀	t22P2	口径 残高	14.2 3.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ヘラミガキ	密	良	内面：黒10Y2/1 外面：灰白2.5Y8/2	口縁部 1/12		032-02
257	土師器	椀	v22P9	口径 残高	12.8 3.5	外面：ヘラケズリ・ヨコナデ 内面：ヘラミガキ・ヨコナデ	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部 1/12	黒色土器？ 黒色化せず	034-03
258	黒色土器	椀	x22P9	残高	2.6	外面：ヘラケズリ・高台欠損 内面：ヘラミガキ・ヨコナデ	密	良	内面：暗灰N3/ 外面：にぶい橙 7.5YR6/4	底部 1/12未満		035-06
259	灰釉陶器	椀	u20P7	口径 器高 底径	16.3 6.0 7.7	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕・墨痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：利休白茶818 素地：黄灰2.5Y6/2	口縁部1/12 底部完形		042-01
260	灰釉陶器	椀	t22P9	底径 残高	8.0 1.7	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：黄灰2.5Y6/2	底部 1/12		032-03
261	灰釉陶器	椀	w22P6	底径 残高	6.8 1.9	外面：ロクロケズリ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 3/12		034-06
262	灰釉陶器	椀	p21P8	底径 残高	6.8 1.4	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰白946 素地：黄灰2.5Y6/2	底部完形		031-04
263	灰釉陶器	椀	u22P19	底径 残高	5.6 2.0	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 2/12		033-02
264	灰釉陶器	椀	w23P8	底径 残高	5.5 4.0	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰白2.5Y7/1	底部 11/12		034-07
265	灰釉陶器	段皿	u23P15	口径 残高	13.2 1.1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰白950 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12		033-06
266	灰釉陶器	皿	x24P4	底径 残高	6.5 1.3	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：抹茶色838 素地：黄灰2.5Y7/2	底部 2/12		036-02
267	緑釉陶器	小椀	u23P4	残高	0.9	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：オリブ色816 素地：灰黄褐10YR5/2	口縁部 1/12未満	東濃系？	042-03
268	白磁	椀	t20P11	残高	2.5	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満		042-02
269	土製品	土錘	t20P15	長さ 幅	3.0 2.8	重さ5.68g、孔径1.3cm以上	密	良	にぶい橙7.5YR6/3	円周 3/12		031-07
270	土製品	土錘	x22P6	長さ 幅	4.4 2.2	重さ9.94g、孔径0.65cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	円周 5/12		035-03
271	土製品	土錘	x24P7	長さ 幅	2.4 1.1	重さ2.07g、孔径0.3cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	全体 6/12		036-03
272	鉄製品	不明品	t21P11	長さ 幅	1.3 1.2	厚さ0.3cm	—	—	—	不明		043-03
273	土師器	椀C	u22 包含層	口径 器高	12.5 3.5	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 3/12		036-06
274	土師器	杯D	w21 包含層	口径 器高	14.4 3.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 3/12		039-04
275	土師器	皿D	u21 包含層	口径 器高	8.7 1.8	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 9/12		038-05
276	土師器	皿D	u22 包含層	口径 器高	8.4 1.9	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 8/12		037-01
277	土師器	皿D	u23 包含層	口径 器高	9.0 2.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ	密	良	橙7.5YR7/6	ほぼ完形		047-09
278	土師器	高杯	u20 包含層	残高	6.5	外面：ヘラケズリによる10面取り・ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	脚部の 一部		045-02
279	土師器	高杯	q20 包含層	残高	4.4	外面：ヘラケズリによる9面取り 内面：工具痕	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	脚部の 一部		045-04
280	土製品	不明品 脚部	q21 包含層	長さ 幅	4.7 2.0	ヘラケズリによる10面取り（摩滅）	密	良	浅黄橙10YR8/3	脚部の 一部	土馬か？	044-02
281	土師器	鍋	u21 包含層	口径 残高	24.1 6.5	外面：オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 2/12		036-05

第Ⅱ－9表 第188次調査 遺物観察表7

番号	器種	器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
282	土師器	鍋	u21 包含層	口径 残高	25.4 13.9	外面：ヘラケズリ・オサエ・ヨコナデ・煤付着 内面：ヘラケズリ・板ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 3/12	040-03
283	土師器	鉢	q19 包含層	残高	6.6	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 1/12未満	038-02
284	土師器	甗	w22 包含層	口径 残高	19.2 5.6	外面：タテハケ・ヨコナデ 内面：板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 1/12	039-05
285	土師器	鍋	u21 包含層	口径 残高	18.1 6.8	外面：ナデ・オサエ・ヨコナデ・煤付着 内面：板ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	口縁部 2/12	038-07
286	ロクロ 土師器	台付杯	q22 包含層	口径 器高 底径	16.0 4.4 7.2	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部4/12 底部8/12	040-02
287	ロクロ 土師器	椀	u22 包含層	底径 残高	6.2 3.0	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	底部 1/12	037-02
288	ロクロ 土師器	台付杯	u23 包含層	底径 残高	7.4 5.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 1/12	039-02
289	ロクロ 土師器	台付杯	u22 包含層	底径 残高	6.9 3.2	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	底部 8/12	037-03
290	ロクロ 土師器	台付杯	t20 包含層	底径 残高	7.5 3.7	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部 ほぼ完形	036-04
291	ロクロ 土師器	台付杯	u24 包含層	底径 残高	10.1 3.4	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕・ナデ 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	底部 1/12	037-06
292	ロクロ 土師器	小型杯	u24 包含層	口径 器高 底径	8.5 2.5 3.8	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	口縁部1/12 底部完形	037-05
293	須恵器	壺G コップ形	u23 包含層	口径 器高 底径	6.9 7.4 4.5	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 4/12	038-01
294	須恵器	甗	u23 包含層	底径 残高	14.2 4.3	外面：ナデ・オサエ・ヘラケズリ・タタキ 内面：タタキ・ナデ	密	良	灰5Y5/1	底部 3/12	039-01
295	陶器	山茶椀	r19 包含層	口径 器高 底径	16.1 6.2 5.8	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕・輪花文 内面：ロクロナデ	密	良	釉：ねこやなぎ色825 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部2/12 底部完形	038-03
296	陶器	山茶椀	u23 包含層	口径 器高 底径	15.0 5.2 6.8	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：ねこやなぎ色825 素地：灰黄2.5Y7/2	口縁部2/12 底部10/12	037-04
297	陶器	山茶椀	v22 包含層	口径 残高	16.2 4.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 2/12	039-03
298	灰釉陶器	椀	t20 包含層	底径 残高	6.6 3.6	外面：ロクロナデ・ヘラオコシ・ナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰色946 素地：灰白7.5Y7/1	底部完形	047-08
299	陶器	山茶椀	v22 包含層	底径 残高	6.9 3.1	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：威光茶990 素地：灰白2.5Y7/1	底部 5/12	037-07
300	灰釉陶器	椀	w22 包含層	底径 残高	6.2 1.6	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 10/12	037-08
301	陶器	山茶椀	w22 包含層	底径 残高	7.0 2.3	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 ほぼ完形	038-06
302	陶器	山皿	u21 包含層	口径 器高 底径	9.1 2.7 4.5	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕・モミガラ圧痕 内面：ロクロナデ・墨痕	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部7/12 底部完形	045-05
303	陶器	山皿	s22 包含層	口径 器高 底径	9.1 2.8 3.9	外面：ロクロナデ・高台貼付・ナデ 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部5/12 底部完形	045-06
304	陶器	山皿	t20 包含層	口径 器高 底径	9.2 2.8 4.4	外面：ロクロナデ・高台貼付・糸切痕・モミガラ圧痕 内面：ロクロナデ・赤色顔料付着	密	良	灰黄2.5Y7/2 赤色顔料：にぶい赤 褐2.5YR4/4	口縁部5/12 底部8/12	038-04
305	瓦器	皿	u21 包含層	残高	1.4	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	密	良	灰5/	口縁部 1/12未満	045-07
306	緑釉陶器	椀	v22 包含層	残高	2.1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：山鳩色822 素地：暗灰黄2.5Y5/2	口縁部 1/12未満	042-09
307	黒色土器	椀	u23 包含層	底径 残高	6.6 2.8	外面：ナデ・オサエ 内面：ナデ・オサエ・高台貼付・ヨコナデ	密	良	内面：黒褐2.5Y3/1 外面：淡黄2.5Y8/3	底部 ほぼ完形	049-01
308	白磁	輪花椀	u22 包含層	残高	1.9	外面：輪花文 内面：輪花文	密	良	釉：水縹993 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	041-05
309	白磁	椀	x25 包含層	口径 残高	14.7 4.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：砂色800 素地：灰白5Y7/1	口縁部 1/12	047-06
310	白磁	椀	u21 包含層	残高	3.4	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：利休白茶812 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	047-02
311	白磁	椀	包含層	残高	3.2	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：砂色800 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	041-02
312	白磁	椀	w22 包含層	残高	2.1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：ねこやなぎ色825 素地：灰白5Y7/1	口縁部 1/12未満	047-05
313	白磁	椀	u21 包含層	残高	1.5	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：黄灰2.5Y6/1	口縁部 1/12未満	047-03
314	白磁	椀	u21 包含層	残高	1.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白8/	口縁部 1/12未満	044-04
315	白磁	椀	r19 包含層	残高	1.9	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満	047-01
316	白磁	椀	s20 包含層	残高	1.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：ねこやなぎ色825 素地：灰白2.5Y8/2	口縁部 1/12未満	042-10
317	白磁	皿	v23 包含層	残高	2.2	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：利休白茶812 素地：灰白5Y7/1	口縁部 1/12未満	047-04
318	青磁	椀	u21 包含層	残高	2.3	外面：ロクロケズリ・高台貼付・工具痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y7/1	底部 1/12未満	041-04
319	青磁	椀	x23 包含層	底径 残高	6.7 1.8	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椽989 素地：灰白2.5Y8/2	底部 2/12	044-03
320	青磁	椀	v22 包含層	底径 残高	4.1 1.7	外面：ロクロナデ・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰緑857	底部 1/12	044-05
321	青磁	椀	u22 包含層	底径 残高	5.7 3.6	外面：ロクロナデ・ロクロケズリ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：象牙色789 素地：灰白2.5Y8/2	底部 完形	040-04

第Ⅱ－10表 第188次調査 遺物観察表8

番号	器種	器形	地区 遺構	分量 (cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
322	墨書土器 土師器	皿	u21 包含層	残高	1.3	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・蔵手状文墨書か？ 内面：ヨコナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	口縁部 1/12未満		049-02
323	墨書土器 土師器	皿	u21 包含層	口径 器高	7.7 1.1	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・不明墨書 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12		044-06
324	墨書土器 灰釉陶器	皿	t22 包含層	残高	2.2	外面：ロクロナデ・不明墨書 内面：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満		044-08
325	墨書土器 土師器	皿	u21 包含層	残高	1.0	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ・不明墨書 内面：ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 1/12未満		044-07
326	製塩土器	志摩式 製塩 土器	r21 包含層	残高	3.9	外面：オサエ・ナデ 内面：オサエ・ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 1/12未満		045-08
327	土製品	土錘	u21 包含層	長さ 幅	4.4 1.5	重さ5.9g、孔径0.5cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形		048-04
328	土製品	土錘	u22 包含層	長さ 幅	5.1 1.5	重さ9.3g、孔径0.4cm	密	やや 良	浅黄2.5Y7/3	ほぼ完形		048-03
329	土製品	土錘	u23 包含層	長さ 幅	3.7 1.6	重さ6.0g、孔径0.5cm	密	良	黄灰2.5Y4/1	ほぼ完形		048-02
330	土製品	土錘	u23 包含層	長さ 幅	3.4 1.3	重さ4.2g、孔径0.35cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	全体 8/12		048-05
331	土製品	土錘	v23 包含層	長さ 幅	2.7 1.0	重さ2.3g、孔径0.35cm	密	良	橙7.5YR6/6	全体 5/12		048-07
332	土製品	土錘	p22 包含層	長さ 幅	6.7 2.3	重さ25.8g、孔径0.8cm	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ完形		048-01
333	土製品	土錘	v23 包含層	長さ 幅	4.2 1.8	重さ9.6g、孔径0.8cm	密	良	浅黄2.5Y7/3	全体 9/12		048-06
334	土製品	土錘	w23 包含層	長さ 幅	3.7 1.6	重さ6.3g、孔径0.4cm	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	ほぼ完形		048-08
335	土製品	土錘	x・w22 包含層	長さ 幅	5.0 1.3	重さ6.11g、孔径0.4cm	密	良	明赤褐5YR5/6	全体 10/12		046-01
336	土製品	土錘	x24 包含層	長さ 幅	4.0 1.5	重さ6.0g、孔径0.4cm	密	良	褐灰10YR4/1	ほぼ完形		048-10
337	土製品	土錘	x24 包含層	長さ 幅	2.7 1.3	重さ2.5g、孔径0.5cm	密	良	浅黄橙10YR8/3	円周 6/12		048-11
338	土製品	土錘	x24 包含層	長さ 幅	4.5 1.7	重さ7.9g、孔径0.35cm	密	良	灰黄褐10YR6/2	ほぼ完形		048-09
339	石製品	砥石	u21 包含層	長さ 幅	9.1 2.1	重さ70g、厚さ2.8cm、砂岩	—	—	灰黄2.5Y6/2	不明		049-04
340	石製品	砥石	w24 包含層	長さ 幅	7.4 4.7	重さ110g、厚さ1.8cm、泥岩	—	—	にぶい黄2.5Y6/3	不明		049-03
341	白磁	加工 円盤	q22 包含層	長さ 幅	2.1 2.0	厚さ0.35cm	密	良	釉：利休白茶812 素地：白9/	不明		046-07
342	鉄製品	釘	u21 包含層	長さ 幅	7.6 0.6	厚さ0.8cm	—	—	—	不明	巻頭？	044-01
343	土製品	土玉	u23 包含層	径	5.3	重さ117g	密	良	灰白2.5Y8/2～ 暗灰黄2.5Y5/2	ほぼ完形		041-06
344	土師器	皿D	u20 表土	口径 器高	10.7 2.4	外面：ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 3/12		040-05
345	土師器	高杯	x21 表土	残高	5.5	外面：ヘラケズリによる面取り 内面：工具痕・オサエ・ナデ	密	良	橙5YR7/6	脚部の 一部		045-01
346	土師器	台付椀	o19 表土	口径 器高 底径	15.3 6.0 6.8	外面：ヨコナデ・高台貼付・オサエ・ナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	口縁部2/12 底部2/12		046-03
347	ロクロ 土師器	小型杯	u22 表土	口径 器高 底径	9.6 3.5 4.2	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部5/12 底部完形		040-06
348	灰釉陶器	椀	q21 表土	口径 器高 底径	16.8 5.4 7.4	外面：ロクロナデ・糸切痕・高台貼付 内面：ロクロナデ	密	良	釉：砂色800 素地：灰白7.5Y7/1	口縁部 3/12		047-07
349	陶器	山皿	r19 表土	底径 残高	6.7 2.6	外面：ロクロナデ・糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：黄灰2.5Y7/2	底部完形		040-01
350	白磁	椀	r20 表土	残高	4.4	外面：ロクロナデ・ヘラミガキ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：利休白茶812 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満		046-05
351	白磁	椀	r20 表土	残高	1.8	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y7/1	口縁部 1/12未満		046-06
352	白磁	椀	p21 表土	残高	2.0	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：青白椀989 素地：灰白2.5Y8/1	口縁部 1/12未満		046-04
353	白磁	椀	x23 表土	残高	1.7	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：利休白茶812 素地：灰白7.5Y7/1	口縁部 1/12未満		042-08
354	青白磁	紅皿	x24 表土	口径 残高	3.8 1.3	外面：型打ち 内面：型打ち	密	良	釉：水縹993 素地：灰白5Y8/1	口縁部 1/12		046-02
355	陶器	瓶類	q20 表土	口径 残高	12.4 11.9	外面：ロクロケズリ・ロクロナデ 内面：ロクロナデ・オサエ・ナデ	密	良	黄灰2.5Y6/12	底部 6/12		039-06

第Ⅱ－11表 第188次調査 遺物観察表9



第188次調査区全景（東から）



調査区中央部全景（東から）

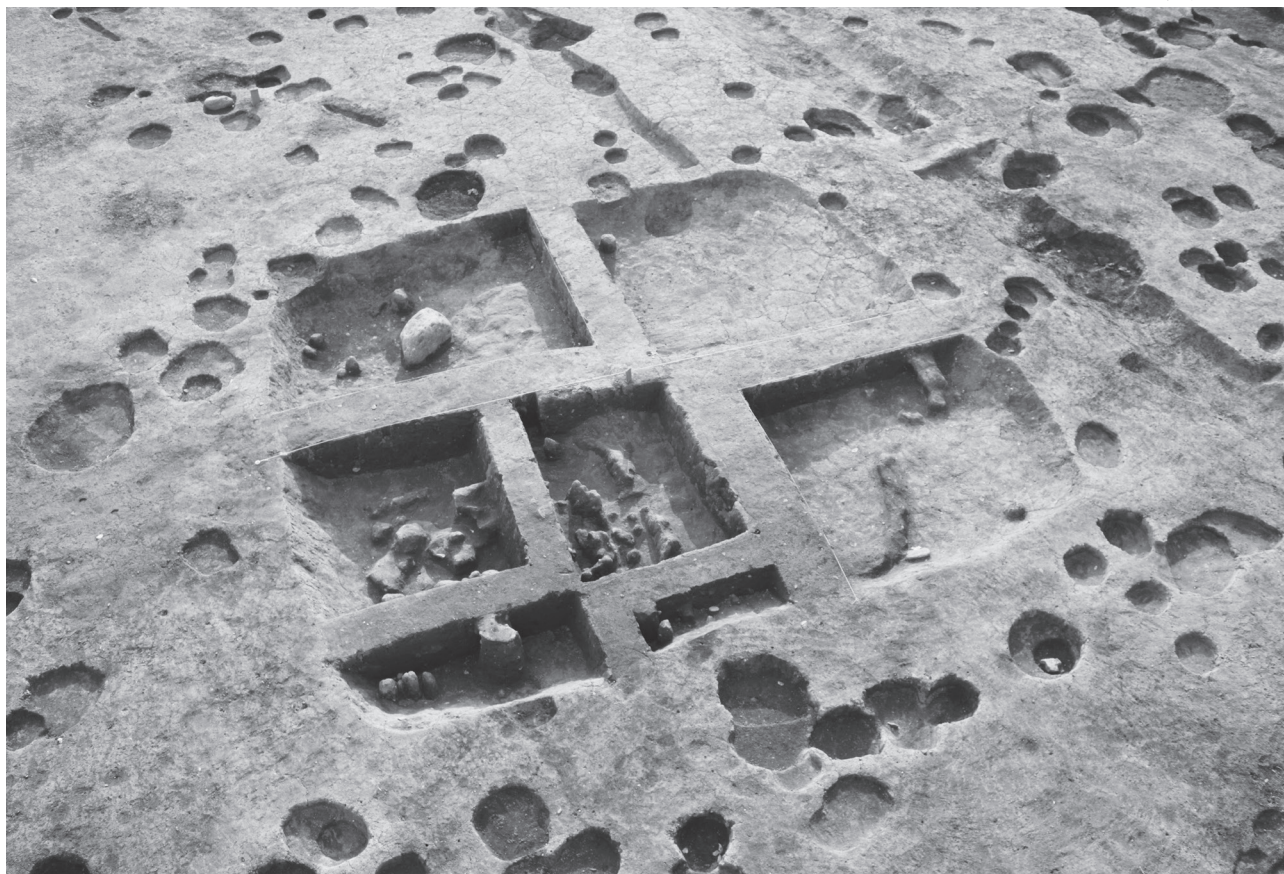
写真図版 2



SF10999 (北東から)



SF11000・11001 (北から)



S110990 (北東から)



SA10946・SB10950 (西から)

写真図版 4



第188次調査現場と案内看板設置



案内テント



発掘現場の見学風景



発掘体験



休日公開



墨書土器体験



大学生による斎宮跡調査アシスタント



三大都市圏講演会（國學院大學博物館）

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと だいひゃくはちじゅうはちじはつくつちようさほうこく							
書名	史跡齋宮跡 第188次発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	宮原佑治・小原雄也							
編集機関	齋宮歴史博物館							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-3800							
発行年月日	西暦 2024年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
さいくうあと 齋宮跡	たきぐん めいわちよう 多気郡明和町 さいくう たけがわ 齋宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20160523 ～ 20161216	700m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
齋宮跡 第188次	官衙	平安・鎌倉・ 室町		道路・ 掘立柱建物・ 柱列・ 竪穴建物・ 溝・土坑		土師器・須恵器・ 灰釉陶器・陶器・ 青磁・白磁・土製品・ 石製品・鉄製品		古代伊勢道から派生する南北道路、竪穴建物状の工房などを確認。
要約	<p>方格街区の西側外部に位置する広頭地区での発掘調査で、古代伊勢道から南に派生する道路や平安時代中期～末期の掘立柱建物、平安時代末期～鎌倉時代の竪穴建物状の工房を確認した。派生道路の成立時期は、重複関係や出土遺物から平安時代前期以前に遡り、平安時代中期には古代伊勢道・南側派生道路の交差点付近を中心に多数の落ち込み・土坑が掘り込まれることで一時的に廃絶する。しかし平安時代後期になると、再び道路側溝が掘削され、再び道路としての機能を取り戻したと考えられる。</p> <p>広頭地区では、平安時代後期以降の四脚門（第15次調査）や類似する方位で規則的に配置された建物群（第59次調査）が確認されており、今回の調査で確認した道路や建物群は、平安時代後期以降における齋宮の公的施設の一部であった可能性がある。</p>							

史跡 齋宮跡

第 188 次発掘調査報告

2024 年 3 月 15 日

編集・発行 齋宮歴史博物館

印刷 株式会社ミフジ印刷

